

会 議 録

会議の名称		令和7年度第4回つくば市図書館協議会		
開催日時		令和8年(2026年)2月17日 開会 14:00 閉会 16:00		
開催場所		つくば市立中央図書館2階集会室		
事務局(担当課)		教育局 中央図書館		
出席者	委員	坏文雄委員(会長)、齋藤てる委員、鈴木もえみ委員、宇川百合江委員、呑海沙織委員、鐵見咲希委員、伊藤佳子委員、杉本まき子委員、松尾みずほ委員		
	事務局	柴原徹館長、中川憲二館長補佐、細田麻美係長、木村未和主査、村松ななみ主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 令和7年度中央図書館重点事業の中間報告 (2) 中央図書館職員及び図書館協議会委員による先進事例視察報告 (3) 新図書館整備に向けた先進事例視察報告 (4) 「共に創るつくば市図書館:未来を描く市民参加型シンポジウム」開催報告 (5) 「新たな図書館の整備検討に関するインターネットアンケート調査」結果報告 (6) その他		
会議録署名人		齋藤委員、鈴木委員	確定年月日	令和8年3月11日
会 議 次 第	1 開会 2 館長挨拶 3 会長挨拶 4 議事 5 閉会			

<審議内容>

1 開 会

○事務局：皆様、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、令和7年度第4回つくば市図書館協議会を開催いたします。会議時間は2時間を予定しております。

本日の会議は、委員13名のうち、出席者9名、欠席者4名のため、出席者数が委員の過半数に達しておりますので、つくば市立図書館条例施行規則第26条第2項の規定により会議が成立しておりますことを御報告いたします。また、本会議については公開となっております。傍聴人の方がいらっしゃる場合もございますので、御了承いただきますようお願いいたします。

会議内容につきましては、会議資料と議事録を合わせまして、一般に公開される予定でございます。議事録作成にあたりまして、録音させていただきますので、合わせて御了承ください。また、議事録を作成するにあたり、議事録署名人を選任させていただきます。齋藤委員と鈴木委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

[委員了承]

○事務局：ありがとうございます。よろしく願いいたします。

2 館長挨拶

○事務局：それでは、開会にあたりまして、当館館長の柴原から御挨拶させていただきます。

[館長挨拶（省略）]

3 会長挨拶

○事務局：続きまして、会長から御挨拶を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔会長挨拶（省略）〕

4 議事

○事務局：それでは、議事に移りたいと思います。議事の進行につきましては、つくば市立図書館条例施行規則第25条第3項の規定によりまして、会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○会長：はい、では早速議事に入りたいと思います。1番、令和7年度中央図書館重点事業中間報告について、事務局から説明をお願いします。

〔議事1 会議資料説明〕

○事務局：令和7年度、2025年度の中央図書館重点事業について、まだ年度が残っておりますので中間報告として御報告させていただきます。

まず1つ目、中央図書館リノベーションについてですが、現在、中庭にウッドデッキの設置工事をしております。中庭に直接出られるような自動ドアを新たに設け、今後、中庭のウッドデッキには椅子とテーブルが加わって、完成形が見えてくるかと思っております。また、自動ドアから入った入口正面のところに、以前は緑色のボードがあり、そこに館内図などが載っていたのですが、入ってすぐに向こうが見えないような、視界を遮るようなボードがあったことで、一見して暗い印象を与えておりました。そちらをガラスの素材に変更し、光を通しながら、必要な情報も載せるという形に変更しました。また、今後、文字等が読みやすくなるような照明を追加す

る予定でありますので、現段階はまだ途中だということで御認識いただければと思います。

あともう1つ大きなところで、こどもコーナーを中心とした館内の改修について検討を重ねて参りました。以前から、利用者の皆さんや児童担当の職員からも意見をいただいているところがありましたので、そういったものを参考にしながら館内の改修について設計業務を委託し、検討を進めております。まだ確定したものは出ておりませんが、そういった作業を進めさせていただきました。

2番目としまして、「複合機能を持つ新たな図書館の整備検討」ということで、先ほど会長からお話がありましたが、12月6日、アルスホールにてシンポジウムを行いました。それ以前には、年度当初5月頃に、ライブラリーピクニックと称して、5月17、18日に屋外展示スペースに移動図書館を配置して、屋外での読み聞かせなどを行いました。その際に市民の皆様から、新たな図書館に関して御意見をいただくという取り組みを行いました。まつりつくばにおきましても、中央公園にブースを出展いたしまして、市民の皆様の御意見を付箋に書いて貼っていただいて、沢山頂戴したものを、現在も図書館の入口付近に掲示させていただいております。

また、8月23日から12月31日までインターネットアンケートを実施いたしました。詳細については後ほど御説明いたしますが、市民の皆様から直接の御意見を伺うことができました。

次のページ、2ページ目になりますが、12月6日のシンポジウムにおましては、呑海委員をはじめ登壇者に講演をしていただき、参加した市民の皆様でグループワークをしていただきました。そのグループワークの結果につきましては、あちら（当日会場前方）のホワイトボードに掲示しておりますけれども、そういった形で取りまとめというか、最後には各グル

ープの代表の方に発表をしていただきました。

今後、令和8年、9年度で、この図書館の整備検討については具体的に動き出すところもあるのですが、今年度につきましては、市民意見を1つでも多く、いろんな手法で集めるということに注力してまいりました。

続いて、情報発信の強化でございます。こちら実績としましては、令和7年7月にホームページの全面リニューアルを実施いたしました。階層をシンプルにするなど、情報アクセシビリティに配慮いたしました。その結果、あくまでも肌感覚ではあるんですけども、電話での問い合わせが若干減ったかなというような感想を持っております。

続いて、分室のサービス向上ということで、令和7年になりまして、劇的に変わったというところはございませんが、従来同様、中央図書館職員が分室を定期的に巡回いたしまして、情報交換を行っております。また、谷田部の図書室につきまして、古くから所蔵していた資料であまり利用されていなくて、今後も利用の見込みがないものにつきましては、中央館に持ってきたり、一部廃棄をさせていただいたというところで、限られたスペースを整理するという作業を行いました。

簡単ではございますが、令和7年度中央図書館重点事業の中間報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○会長：はい。後半の議事の中で似た内容が出てきますけれども、とりあえず今、館長から述べられたことに関して、御意見がありましたらどうぞ。

○委員：質問なんですけれども、分室の資料の整理に関して、谷田部について随分手を入れたように仰っていましたが、他の図書室においても、再利用本の配布のようなものを不定期にやられていると思うのですが、それとは別に、中央図書館の方で手を入れたということなののでしょうか。

○事務局：谷田部につきましては、実は書庫というか倉庫代わりの、谷田部交流センターとしての部屋があり、そこを共用で使用していたんですけど

も、本当に古い、おそらくラベルとか見ると、「谷田部町中央公民館」と書いてあるような本がまだ残っていたんですね。ですから、その辺を整理しまして、交流センター機能を充実させられるようにと、そういった観点から整理をさせていただいたところです。ですので開架部分については、劇的に何か変わったということではなく、保存書庫の部分について整理させていただいたところです。

○委員：はい。今のお話に関して、分館ごとにカラーがあるということでもよろしいのでしょうか。谷田部でしたら今回のような古い本があつてなかなか整理ができていないとか、他の図書室だったら動きが多くて整理がよくできている、というような、分館ごとに分館ごとに違いとか、顕著な特色はあるのでしょうか。

○事務局：はい。ちょっと遡ると、谷田部の図書室は中央図書館ができる前から、町の時代からありました。あと荃崎の図書室も同じように、合併前の荃崎町の図書室でしたので、その2か所については、かなり古くからいろいろ集めた資料がありました。小野川と筑波については、中央館ができて、つくば市が誕生した後にできた図書室ですので、我々が手をかけられたのは筑波と小野川かなと思います。筑波と小野川については、面積が小さい、狭いので、場所が限られた中でいかに効果的な資料を揃えるかというところに注力しているところはございます。ですから、意図して「コレクションをこういうふうにしよう」という明確なものはないのですが、必然的にそれぞれの特徴が出たという形になっているかなと思います。

○委員：今の2つの質問に関連することなんですけれども、私も谷田部の交流センターをよく利用しているんですが、各交流センターの本の廃棄や選定というのは、どなたがされているのでしょうか。本館で行っているのか、それとも、それぞれの分室にいらっしゃる職員の方が行っていらっしゃるのか。

- 事務局：交流センター図書室の選書については、そこに勤めている、委託の職員が選定を行っております。廃棄についても、やはりそこに配置されている委託の職員が選定しております。やはり利用者と一番接しているのが、そこに勤めている職員で、その交流センターの利用の傾向等が分かるため、お願いしているような形になります。選書の基準は、中央図書館で定めた選書基準がありますので、そちらに従っていただいております。特にどういった本が人気か、利用されやすいのかが分かっているので、そのあたりを重点的にお願いしているような形になります。
- 委員：続けての質問で申し訳ないのですが、交流センター図書室の職員の方は、司書資格を問われての採用をされているのでしょうか。
- 事務局：はい。必ず1名は司書資格を持った者であるように委託しております。
- 委員：はい、分かりました。ありがとうございます。
- 事務局：補足なのですが、今の「必ず1名司書がいる」というのは、カウンターの当番制で、例えば小野川ですと8人ぐらい職員がいますが、シフト制で窓口におりますので、各時間帯に必ず1人は司書がいるということです。例えば、早番、遅番で1日の中で入れ替わりもありますが、早番にも1人、遅番にも1人がいるという意味なので、お客様がいらしたときにサービスをしてくれる職員のうち、必ず1人は司書がいる、という配置をしております。
- 会長：谷田部交流センターの横には、広大な敷地があつて、以前は車を停められなかったんだけど、この頃、自由に車を停められるようになっていようですね。あれは図書館の土地ではないのでしょうか、図書館にとっては良かったですね。
- 事務局：はい。そうですね。御存知の方もいらっしゃると思いますが、元々その土地には、谷田部町の頃からプールがありまして、プールを解体した

後、つくば市としても何か建てるのかという話があって、案として、その当時、行政バスで、大型バスを何台か持っていて、そのバスの車庫にしようという案も出ていたのですが、地盤等を調査したところ、建物を建てるには非常に弱いということがわかりました。川沿いの低いところで、浸水想定区域にもなっていますので、新しい建物は、公共施設としてはちょっと建てられないかなということになりました。ですので、やはり図書室の利用者のための駐車場が不足していましたので、管理をしている担当課にかけ合い利用できるようになりました。

○会長：図書館の方から要望した結果なんですね。

○事務局：そうですね。最初は1階の保健センターで乳幼児健診等があるときは、お客さんが多いので臨時的に開けていました。図書室も、土日などは朝から駐車する場所がないので、貸して欲しいとずっと交渉していて、いろいろ課題はあったのですが、そこをクリアして今使えるようになりました。

○会長：ありがとうございました。交流センターの前にある駐車場だけでは狭すぎたから、良かったですね。

○事務局：最初、谷田部交流センターとしては、国道350号線を渡った市民ホール側の駐車場を使ってくださいとアナウンスしていたのですが、例えば、小さいお子さんを連れていらっしゃる方やベビーカーの方が、あれだけ車の通りが多い国道を渡ってくるのは不安だという声が沢山ありましたので、舗装はされていませんが、隣接しているあの駐車場を使用できるようにしていただきました。

○会長：分かりました。他にございますか。

○委員：今のことに合わせてお聞きしたいのですが、そういうふうに谷田部や荃崎など比較的古いところにテコ入れをして中央図書館の基準に照らし、全体が均一化していくのはとてもいいと思うんですが、いつぐらいいま

でに広げようとか、或いはわざわざ個性を出すためにテコ入れしていこうとされているんですかね。これから谷田部とか荃崎のほうに手が入ることが、今後も増えていくイメージになるのでしょうか。

○事務局：具体的な整備計画みたいなものはないんですけども、結果として利用されてる方のニーズがどこにあるのかは、的確に把握して、それに近づける努力をする必要があるかなと思っています。まだ内部で合意が得られた訳ではないのですが、後程御説明できるかと思いますが、新たな図書館の整備検討を進める中でただ単に、新しい中央図書館を作るという計画だけではなくて、つくば市全体のサービス計画についても同時並行で作っていかないと、ただ単にぼーんと大きな1つを造ればそれで終わりではないと思うんですね。

今回もそうなんですけど、アンケートをとると、やはり身近なところで図書館サービスが受けられる、ポイントの整備に対する御要望も多くて、ブックポスト1つを設置するだけで本当に喜んでいただけるような状況もあるので、ですから、身近なところ、いつでもどこでも誰でも利用できるような、そういった全体的なサービス計画を合わせて作っていく必要があるかと思っています。その中で、各図書室に特徴を持たせたり、という内容が盛り込めればいいのかなどという、これは私見のような部分もあるのですが、そういう考えは持っているところはございます。

○委員：ありがとうございます。大きなシフトしていかなきゃならない時期で、細かいところにも御配慮いただいて、それぞれの地域の充実が図られそうなイメージがよく分かりました。

○会長：最後の項目として、分室のサービス向上とありますけれども、これは絶対必要だと思います。どんな新しい図書館ができたとしても、これだけ大きな街になると、やっぱり今あるような要所要所の質も上げていかないとイケませんね。

それでは、次の議題として、中央図書館職員及び図書館協議会委員による先進事例視察報告について、事務局の方からお願いいたします。

〔議事2 会議資料説明〕

○事務局：はい。資料の3ページから5ページになります。皆様には資料にお目通しいただいているかと思いますが、昨年10月14日、真岡市複合交流拠点 monaca というところに視察に行つて参りました。今回、協議会委員の皆様にも是非見ていただくということで、会長をはじめ、7名の委員の皆様にも御出席いただいております。中央図書館からは3名、子ども部こども政策課の方から3名出席いたしまして、現地で合流したというような流れになっております。

施設の概要ですが、複合施設ということで、相談室、こども広場を備えた子育て支援センター、貸室などの機能を備えた地域交流センター、それからカフェというような施設が併設されております。事業費といたしましては、約38億円ということになっております。整備の検討プロセスですが、こちらにつきましては、新庁舎周辺整備事業ということで、市庁舎の移転に伴いまして、旧庁舎及び体育館跡地の活用方法検討の中で、老朽化が進んでいる図書館、それから子育て支援センターの建替の提案から始まったということでした。プロセスといたしましては、平成29年、2017年から検討を開始しまして、2019年3月に基本構想の策定、2020年に基本計画策定、2023年3月に着工、2025年1月に開館したところでございます。

視察の当日は、施設の統括責任者、副統括責任者の方からかなり興味深いお話をいただきまして、副統括責任者の方は、元真岡市の職員で、monaca の検討開始から建設に至るまで、現在の状況等も含めて、大変面白い話を聞かせていただいたところでございます。当日御出席された委員の皆様もいらっしゃいますので、当日の様子を思い出していただきなが

ら、感想等も含めて御意見等を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○委員：はい。視察の際には大変お世話になりました。先ほど会長が仰ったように、百聞は一見にしかずで、実際行ってみて、そこを利用している人たちの姿を見て、職員の方を見て、中を歩いていると、複合施設ってということがやっぱりすごくいい考え方なのだなということを実感いたしました。全国的な潮流にはなっているんだけど、やっぱり図書館だとどうしてもこう落ち着いて読書を楽しむようなイメージが強過ぎると思います。しかし実際に見てみると、いろんな方たちのそれぞれの目的に合わせて使える場所なんだということですね。それで、学習の場としても、放課後になると学生たちが来て勉強をされていて、うまくバランス良く使用されているなど感心いたしました。乳幼児から高齢者までがそれぞれの自分の目的に応じて使えるってということがいかに大事かっていうことで、施設に来ているうちにどこかで交流できるような機会もあるだろうと思いますと、やはり市や町の活性化にも、自然に繋がっていく部分があると感じました。

ただ、monaca に関しましては、市の職員の方がずっと関わってきて、最終的には職を辞して、委託業者のシダックスの方に職替えをして、今でもずっと仕事をしているということをお聞きして、1つの理想像かなと思うところはあります。全てを知っていて、全体を見られる方っていう人がいると乳幼児から高齢者の方まで、使い方が別のところに皆さんいらっしゃるから、それを全部掌握できる、リードできるという意味では、すごく良い形でやっていらっしゃるなというふうに思いました。

あと、フィーリングの音楽が流れたり、アロマが出てくる場所もあるってということとか、屋上でダンスもできるんだとか、そういったところも目から鱗で、それも面白いことだなと、いろいろな魅力を感じて帰ってまいりました。ありがとうございました。

○委員：私もこの視察に参加させていただきました。とても良かったです。

「複合施設」って漢字で書くとすごく堅苦しい、カチツとした印象があるんですが、そうではなく、外の明かりが入って、特に1階はすごく明るくて入りやすいです。外から入っても、入ったという感じがしない。とても開けた空間で、1階は飲食ができる場所があって、カフェもあって。1階の全ての場所で飲食できる訳ではなく、奥に行けば別の空間があって、そこでは飲食できないとか、ちゃんと区切られてはいるのですが、それでも全然区切りがない印象でした。ゾーン、区間ごとに椅子やテーブルが違ったり、木であったり、材質を変えることで自然と分けられている気がしました。実際に行ってみて、「複合」に対する堅いイメージが崩れて、居心地いいというのがすごく大事なポイントだなと思いました。居心地の良い1つの事例を見た気がします。

どうしてこの実現が可能だったかという点、やはり1人の人がと言っていいのかわかりませんが、市の職員の方が初めから今までずっと関わっているというのがすごくポイントだと思うんですね。だから、つくば市でやる時も、できればずっと携われる、10年スパンで携われる人がいてくれるとベストかなと思います。その方が凝り固まった頭でなく、これを成功させるという観点で考えて、周りの意見やアンケートなど色んなところから来る情報を総合的に捉えて形作っていただくのが一番大事かなとつくづく思いました。

また、もう1つ良かった点が、monacaの指定管理期間が15年で、その後、最終的には市民運営になるという契約を組んだ、これもすごく大きいと思うんです。市民たちが、自分たちが運営するという意識で関わっているということがすごく大きなことだと思いました。

○委員：私も当日参加させていただきました。すぐに自分のホームページの方に詳しく書かせていただきました。そこから少し抜粋してお話しします。

れども、皆さんが仰った担当者の方に説明をしていただいた中で、私としてはハコモノをつくるだけでいいのか、という大きなキーワードを元に、様々な角度から話し合ったというお話をされたことが、非常に印象的でした。当日も、赤ちゃん連れから学生、保護者、御年配の方などが、それぞれお気に入りのフロアにいらっしゃって、どの年代の市民にもサービスが提供できる形で、図書館全体が明るく前向きになる空間であったということがポイントだと感じました。特に、自動貸出機、こどもゾーン、静かな図書館像の上手な区切り方、そして地域交流ゾーンとカフェなどについては、つくばでも取り入れたらいいのではないかなと思いました。

また、先ほど委員の仰ったように、椅子や机、植物の配置、明かりの色合い、そういったものの機能性と美しさを兼ね備えた部分が魅力的でした。今のつくば市立中央図書館では、スーパーで使っているような茶色の買い物かごを、館内で本を持ち運ぶ用途のために置いていますけれども、monaca ではちょっどこじられた感じのビニールバッグがあって、これは軽くていいなと思いました。驚いたのは、私はそこまでする必要はないんじゃないかと思いましたけど、大人ブースにある、鳥の音が響く癒しの空間で、少し薄暗いというようなところもありました。それは予算があればですかね、そこまではとりあえず求めないかなっていうのと。

あとは1点だけ、つくばでは真似しないで欲しいなと思ったのは、有料で、お金を払った子どもたちだけが遊べるゾーンがあったのは、自分としては正直これは嫌だなと思いました。そういうような差別のない図書館を是非目指して欲しいなと感じました。

担当職員の方は情熱と想いが非常にある方でしたので、そういった方がまたこちらの図書館づくりでも中心となってグイグイと引っ張っていかれたらいいなと、あと心と頭の柔らかい方がされるのがいいかなという感想を私も持ちました。このような視察に行かせていただきましたことが非常

に学びになりましたので、ありがたかったです。また何かありましたら是非お声掛けいただきまして、学ばせていただけたらと思いました。

○委員：ありがとうございました。私も皆様が仰っていたとおり、すごく市民協働を意識されている図書館だなということを感じました。図書館を作るまでのプロセスに携わることや、協働を体験するというキーワードが出てきたんですけど、そういった市民協働、連携をしてから図書館づくりに市民の皆様が参加されることで、「市民の図書館」という意識が芽生えるんじゃないかなと思いました。

あとは、中高生を巻き込んだ取り組みが大変勉強になりました。例えば、中高生を対象にアンケートをとられていたり、体験型のイベントをされていたり、市がそういう傾向なのかもしれませんが、そういったアプローチをすることで、特に図書館利用が少ないと言われがちな中高生を上手く巻き込むことができるのではないかなと思いました。

あともう1点、仕切りはないような設計にしているというお話があって、そこが印象に残っています。仕切りがないことによって、常に他者からの視線を感じられるような作りになっているというお話でしたが、そうした設計にすることで、居心地良く過ごせるスペースでありつつ、常に他者の視線を感じるさせるような作りになっていて、公共図書館の使い方を学ぶこともできると思いました。

○委員：今のお話に追加して、私もすごくいいなと思ったのは、現在進行形でその複合施設、図書館だけじゃなく、イベントの企画ボランティアグループがあって、そこに高校生が結構参加していてイベントをやっているというのが印象的でした。彼らの生活の一部になってるんだな、成功しているなと思いました。

○会長：ゾーニングという言葉があるんだなと思いましたね。1階や2階の子どもたちやそれぞれの活動が、3階の図書館や各階の活動を邪魔しないと

か。うまく作られてるなど。50年近く前の若い頃、竹園東の学校が創立したんですが、当時現代的な学校の建築で、一部がオープンスペースになっていてそこで学習活動をするという建築になっていたのですが、吹き抜けになっているものですから、そこで何かやっていると2階までうるさくて結局使えないようなことになってしまっていたんですね。そこを、今はうまいことやっているんだなと思って見てきました。お互いがお互いを、開放的でありながら邪魔しないっていうのが成立しているのが、やっぱり時代は違うんだなと思って、感心しました。

○委員：私も見学参加させていただきました。大変勉強になりました、ありがとうございました。皆さんも仰っていますけど、私が monaca を見てポイントだなと思ったのは3点あります。

まずキーパーソンの存在は、皆さん仰るとおりだと思います。突破力もあるけど、言葉は悪いですけど、根回し力のある方がいるっていうことがとても大切で、立案から計画まで奔走し続けて、施設の完成がゴールではなく、その後市民が運営するという形に、どう持っていくかまでの、長いスパンで走り続けていくだけの計画と力を持った人がいるという。これは例えば、ぎふメディアコスモスの吉成さんとか、成功してると言われている図書館には必ずそういう方がいらして発信をされているので、やっぱりそういう方が1人必要なんだなということを強く感じます。

もう1点が、予算、財源の確保です。建設に反対する候補が市長選に出てとても大変だったみたいで、そこを乗り越えたのは、財源確保ができていたから。とても大事なことなんだなと改めて思いました。複合施設が最近多いですけど、国の補助金が出るというところがとても大きなところで、やはりどこの地方財政もとても大変なので、複合施設にすることによって、国の補助金がもらえる、イコール新しい図書館が作れるという図式も、無きにしもあらずなんだろうなと思いました。あと DBO 方式、資金の

調達の方法が、ある意味踏み切ったやり方だとは思いますが、それを成功させることができたというところなのかなと思います。建築資金を大幅に崩すことなく済んだ、ギリギリ資材高騰に引っかかる時期に完成しているので、今つくば市があればと同じ規模のものを作ろうと思ったら、一体幾らかかるのかしらとちょっと思いました。

ゴールの置き方を15年後に設定したことも見識のあることだと思います。あと、ゾーニングなどをはじめ、何を質問しても「こういう意識を持った図書館だから、こういうサービスを提供しているんです」という返答がすぐに返ってくるんですね。色んなサービスがあって、新しい図書館に行くと「これも、これも、これもいい」と思うんですけど、全部を採択することはできないわけですよ。その時に、うちの図書館はこういう考え方を持って建てたので、こういうサービスを提供しております、と胸を張って言えるような状態を作ることがとても大切なんだなと思いました。

○会長：はい。それではよろしいでしょうか。次の項目に移ります。では3番、新図書館整備検討に向けた先進事例の視察について、事務局からお願いいたします。

〔議事3 会議資料説明〕

○事務局：はい。説明させていただきます。視察は、市長公約事業を進めるにあたり、近年開館した先進事例や成功事例における整備検討プロセスや複合機能の併設に関して参考情報を収集するために、13の施設を視察しました。整備におけるプロセスについては、中心地に生じた空き地の活用用途として図書館が候補に上がり、中心地市街地活性化などを目的として、他施設と複合の上整備された事例が多く見られました。多くの事例では、都市整備や都市計画などの市長部局下の部署が主導となっており、教育委員会下の組織が主導した場合でも、新図書館建設推進室などの専門の室が設置されていました。市民意見の聴取や、合意形成の手法としては、パブ

リックコメント、愛称の公募、市民ワークショップを開催する例が多く見られ、整備検討段階から開館後まで、ボランティアやサポーターとして、市民が関わっている事例がありました。

複合施設として単に各機能が併設されているわけではなく、施設内の各機能を融合させることにより、図書館と各機能を組み合わせた複合的な活動やついで利用が可能となる、付加価値の高い施設がありました。須賀川市の市民交流センターの場合、利用者の行動や心の動きを表すような、「ワクワク」、「であう」、「つくる」、「あつまる」などのフロアテーマに応じた機能配置をしていました。小千谷市の事例では、「アンカー」、「フロート」、「ルーフ」など、施設内の独自の呼称で各機能を位置付けていました。

また、静かに読書や学習を行うための静の空間と、開放的な動の空間は、区画分けするなど、利用者が気にならないような工夫をする必要があり、真岡市や多摩市のように階でゾーニングを行う例や、小牧市のように絨毯の色や家具などで雰囲気を変化させている例があります。一方、ゾーニングを行わず、施設全体の雰囲気や運用方針により音が許容されている事例もありました。ぎふメディアコスモスでは、「子どもの声は未来の声」という理念の下、子どもの声に対して理解を求める姿勢をとっています。

滞在型の機能を持たせる工夫としては、飲食可能なスペース、多様な家具、屋外スペースなどの活用が有効と思われます。視察に行ったいずれの事例においても、将来的な蔵書の増加に備え、余裕のある書架構成となっており、展示を行うスペースが確保されています。また、ぎふメディアコスモスや小千谷市ホントカ。のように、移動可能な書架や家具を配置することで、多様な目的に活用できるスペースを確保する事例が見られました。図書館の機能としては、いずれの図書館も IC タグ及び自動貸出機を

導入しており、座席の利用が非常に多い事例においては、座席予約システムが導入されていました。また、カフェの併設、飲食可能なスペース、Wi-Fi 設置など、長時間滞在するために必要なスペースや設備が整備されていました。

図書館にどのような機能組み合わせるかについては、市民ニーズを考慮の上、立地、利用者層、他施設の建替えの必要性も含めて検討する必要があります。新図書館の整備は多額の費用がかかるため、市民の同意を得るために丁寧にプロセスを進めていきたいと思えます。

また、先進事例においては、他組織や市民との関係構築やイベントの企画運営、まちづくりへの寄与が重要課題とされている印象がありました。当市の図書館においては、資料の貸出サービスが中心となっており、職員がカウンター業務に忙殺されてしまっている状況です。今後は ICT 技術や業務委託を活用することによって、図書館の役割、職員の役割や、サービスの拡充を検討していく必要があるように感じました。

○会長：はい、職員の方が先進事例を視察して、報告をしてくれました。委員さんから何か聞きたいことはありますか。

○委員：はい、その視察に行った図書館で、オリジナルグッズみたいなものや、「ぶんちゃん」のようなマスコットがいたり、そういった図書館のオリジナリティがあるところはございましたか。

○事務局：はい、記憶の範囲で申し上げますと、ぎふメディアコスモスにはオリジナルのタンブラーがありました。当方の職員が思わず買ってしまいうような、素敵なデザインで。

○事務局：開館 10 周年記念のタンブラーが販売されてまして、図書館のカウンターで購入してまいりました。あと、真岡ですと視察の際にいただいたクリアフォルダがありましたし、バッグなども丁度販売を始めたというようなお話があったかと思えます。

- 委員：あと、マスコットとかは。
- 事務局：ぎふメディアコスモスでは、「モーリー」というキャラクターがいて、立て看板と一緒に記念撮影をしました。建物に特徴的な傘（グローブ）があるんですが、それを模したキャラクターでしたね。
- 事務局：あと、桜川市のさくらすにも、ありましたよね。
- 事務局：さくらすの職員の方が飼っている柴犬がキャラクターになって、アクリルスタンドになっているものもありました。
- 委員：私やっぱり、ぶんちゃんの絵がついたトートバッグが欲しいなと思って。子ども目線で考えると、親子が来て、バッグとか、缶バッジとかを持っているのとか、そういうのもちょっといいなと思っていて。
- 委員：ちょっとベーシックなお願いに戻ってしまって恐縮ですが、この10ページのところの職員の役割変化に関して、特に中央図書館などでも職員さんがとにかく貸出業務で忙しいということですから、そこに、例えばスーパーのセルフレジのようなああいう貸出機を取り入れて合理的になっていくのは良いなと思いつつ、できれば本来の、本の楽しさや大事さとか、専門の職員、プロフェッショナルとの接点を持てる窓口、自然にコミュニケーションをとりに行けるところを各ポイントに置いていただけたらいいのかなと思います。せっかくの方々がいらっしゃるので、職員は減らさずに、どこかポイントで置いていただけたらありがたいな、という希望です。
- 委員：はい。ちょっと関連している内容なんですけれども、人って2種類に分かれてるみたいで、なるべく人に接したくないとか話したくない、変な話、借りている本を見られたくないっていう方たちがいる反面、私もそうですし、御年配の方とかはちょっと図書館の方とお話したいとか、質問したいとか、機械が苦手だっていう方もいるので、やっぱりその両方が必要かなと私も思いました。自動貸出機もいいし、対人も両方、両輪でやって

いただける図書館であって欲しいなと思いました。ただの冷たい箱じゃなくて、温かみやぬくもりがあるというのがとても大事なことなので、そういったところも期待したいと思います。

○会長：これはよく分からないんだけど、中学生や高校生たちがよく図書館に勉強に来ますよね。あれは、図書館は「大いにやりなさい」と言うのか、それとも「仕方ない」と目をつむっているのか。自習室や学習室など、「部屋まで用意しますよ」とやるのか。そういった観点からは、視察してきた中で何かありましたか。中学生や高校生に、「どうぞここで勉強してください」という部屋を用意してある施設は。

○事務局：そうですね、愛知県小牧市の図書館は面白い作りをしていて、1階の子どもコーナーの奥にスロープがあるんですね。スロープの途中にも棚や展示があったりして、そのまま上がっていくと中高生向けのヤングアダルトコーナーに自然と到着しているんです。ヤングアダルトコーナーにしても、小学校の高学年から中学生、高校生という順に本が配列してあって、その先に勉強できるスペースがありました。その上には一般書のコーナーがあって、自然と誘っているというような。本当に設計ってすごいなと思いました。あと、ぎふメディアコスモスはワンフロアで、すごく広い、体育館3つぐらい入るんじゃないかと思うぐらい広いようなところで、ここもかなりのスペースが用意されております。

○会長：最近、スーパーのイートインスペースで勉強している学生もいるんだよね。なんでこんなところで勉強できるのかなと思いました。それから、ノバホールが最近リフォームしたのかな、隣室に勉強している高校生がいっぱいいるという話も聞くし、やっぱり中高生が勉強する場所を求めている現状もあると思うんだけど。それは図書館の職務ではないとするのか、或いは、大いにいらっしゃいと、自分で参考書を持ってきて勉強してもいいことにするのか。これからの流れは私には分からないんだが、実際

に勉強する場所を求めている中学生高校生が本当に沢山いるってことは確かなんでね。そこはどういう方向に行くんでしょかね。

○事務局：感覚的なところなんですけど、自習でも持ち込み学習でも、図書館に足を運んでくれるってすごいことかなと思うんです。例えば自分の子どもの場合を想像してみると、うちはここから少し離れているので、お弁当と勉強道具を持って、1日お休みの日にそこら辺で遊ぶんじゃなくて、図書館に来て、内容はわかりませんが、勉強しようという姿勢、その行動がすごいなと思って。ですから、勉強するなら図書館、とだけ思っていたらだけで図書館としてはありがたいなと思っていました。ちょっと疲れたときに、漫画、コミックでもいいから頭を休めるのに読んでいただいて、そのうちふと他の棚を見ると、何か面白そうだなとちょっと手に取ってもらえたら。そういうふうには、図書館とその世代を離さないように引きつけておけば、例えば子どもができたなら子どもの本もまず図書館に借りに行こうとか、そういう発想になっていただけなのかなと。図書館がどういう使い方であれ、生活の一部になってくれるといいかなという思いがあります。

○会長：私、月に1回会合があって、土浦のアルカスに月1回行ってるんですけども、やはり高校生たちがよく勉強しているなと思います。これは図書館の資料ではなく、自分の勉強だろうなと。こういったことは図書館の業務じゃないのか、或いはそういうことも含めて考えていくべきなのか、どうでしょうかね。

○委員：そうですね、「図書館の資料を使わなければ閲覧室を御遠慮いただきたい」という使い方は、日本独特ではないでしょうか。先ほど館長が仰ったように、私としても、図書館に来ていただけることが一番大事だと思いますし、本離れと言われているところで、今後ますます日本でも必要になってくるのではないかなというふうに思っています。例えば、アジアでも

中国とか韓国だと、学生が勉強するスペースは図書館が準備するもの、という文化があるので、そのスペースが足りない場合はご遠慮いただくのではなくスペースを拡張される方針をとっていたりしています。

少し話題が変わりますが、今回、視察のご報告がとても参考になりましたが、海外の図書館も是非視察に行っていただきたいなと思います。予算的に難しいかもしれませんが。特につくばは科学の街ですので、DXとかAIXとか、そういった方向性がマッチするかなと思います。例えば近場ですと、上海図書館東館が大規模な、DXを最大限に生かした図書館であったりしますので、そういったところにおひとりでもいいので、視察に行かれたらまた違う学びがあるかなと思いました。あとは、少し遠いですが、イギリスロンドンの「アイディアストア」も参考になります。「図書館」という名前だと図書館に来にくい人たちが来ないので、図書館だけでも、あえて図書館の名前を使わず「アイディアストア」という名称が使われています。

○委員：今の委員のお話を伺って感じたんですが、つくばって海外の方が多いので、予算の関係で難しいとは思いますが、海外の方から御意見を聞くっていうのはとても大事なことですよね。海外で、自分の本国ではこんな図書館だとか、こういうふうにして欲しいっていうのを、協議会の委員さんとして中に入ってもらうのは難しいとしても、そういうワークショップのような、集まりを開いて、是非海外各国の方から御希望や御意見、こういう図書館がありますよというようなお話を伺えるといいのかなと思いました。そしてやっぱり私も子どもには安心安全な場所で勉強して欲しいので、図書館がとてもありがたい場所だなと思っています。是非そういう場所であって欲しいなと思っています。

○会長：はい。それでは次に行ってよろしいでしょうか。4番目、「共に創るつくば市図書館：未来を描く市民参加型シンポジウム」開催報告について

て、事務局からお願いします。

〔議事4 会議資料説明〕

○事務局：はい。資料12ページになります。新図書館に関するシンポジウムを開催させていただきました。期日は令和7年12月6日土曜日、午後2時から5時で行いました。このときの登壇者、本日もご列席の呑海先生はじめ、当市の五十嵐市長、そして染谷さんという方で、この方は日本図書販売、日販の関連会社、ひらくの方です。「文喫」という、六本木や名古屋、福岡などに店舗がある書店、私は六本木の方にお邪魔させていただいたんですけど、そちらの経営などをされています。あと、箱根にあります「箱根本箱」というホテルなども運営されている会社の社長さんに来ていただきました。それぞれの立場から講演をいただきました。

講演の後、トークセッションをお三方でしていただきまして、その後、参加者のグループワークを実施しました。その結果が、こちら（会場前方の掲示）となっております。会場の関係で先着50人に限られていただき、申込は50人だったんですが、御欠席の方いらして、ちょっと少なくなっていました。図書館協議会の委員さんにも御参加いただいて、合計で48名で行われました。

当日の様子につきましては、写真等にありますように、当初からグループごとに座って講演を聞いていただいて、その後グループワークをしていただいた、という形になります。最後には、会場全体での情報共有ということで、各グループの代表の方に発表をしていただきました。グループワークは、全くテーマを決めないと、何について話すか、それを話している時間があったいなかなと思ひまして、あらかじめ4つのテーマを設定させていただきました。その4つのテーマは、図書館懇話会の提言書の中で出していただいた4つのテーマなんですけれども、資料の2ページほど先にもございますけれども、このテーマのどれかを選んでお話をしてくださ

いという形で、参加者の方にお願いをいたしました。こういったお話が出たかというのは、当日の動画を撮りましたので、今後公開していきたいと思っております。

資料の14ページに参加者のアンケート、特に自由記述のところですが、いろいろ御意見を頂戴しております。やはり時間が少なかったなっていうところも、課題としてありまして、市の具体的な構想とか実効性が見えなかったというような御意見も頂戴しております。これにつきましては、今回のシンポジウムがいわゆるキックオフのような、これから議論をしていく段階で、まずは丁寧に市民の皆さんの意見を聞いていく、これを積み重ねていきたいという段階でしたので、なかなか市の方から具体的なものをお話できなかったという部分になります。また、今後への期待として継続性、継続開催を求める声というのが沢山ございました。また、若年層の参加を促進して欲しいということで、今回の50人の中でも、10代の方が0名、20代の方が6名、30代の方が5名、40代の方が5名、ということで若干の偏りがありますので、今後の討議の参考とさせていただきたいと思っております。また、当日、子ども図書館の設置についての要望書を承っておりますので、そちらも今後の議論の参考にさせていただきたいと思っております。

今回のシンポジウムの開催につきましては、令和8年度から新図書館建設に係る基本構想の作成を開始するに当たってのキックオフのような位置付けとしております。市民意見を伺う手段としましては、市民ワークショップを重ねていくということを予定しておりますので、今回御参加された皆さんの御意見は、今後の議論の中で大変参考になるものとして捉えております。説明については以上でございます。

○会長：はい。シンポジウムには、私を含め、委員も何人が参加したかと思いますが、感想でもいいので何かございますか。

- 委員：今回10代の方の参加がなかった、申込がなかったという結果でしたが、これを地域の中学校高校などと連携して、中学校高校などで開催すると、より若年層の御意見が聞けるかなと思ったのですが、実施は難しいでしょうか。
- 事務局：確か広報戦略課だったかと思うんですが、中高生を対象を絞ったタウンミーティングをやっていたことがありましたので、そちらの担当課に、どういうふうに行ったか確認してみたいと思います。是非今後いろいろと御意見を頂戴できたらなと思っております。
- 委員：当日参加させていただきました。呑海先生はじめ、お話ししてくださった方々のお話がすごく分かりやすく、楽しくて、とても良かったと思いました。これも私、自分のホームページにすぐアップしたんですが、「図書館とは本の置き場ではありません。単なる書庫と思われがちですが、図書館は人なんです」という、その知識を得たいと思う人々が主役です、という素敵な言葉を今回初めて知って、なんて素敵な言葉なんだろうと感じました。図書館は知と文化をつなぐ、あらゆる世代にとって価値のある大切な場所で、人が触れ合う場所で、その街らしさを表現する場所だということ、講演の方や、参加者の方がお話ししていて、皆さんの熱いつくば愛と図書館愛を感じるお話や提言が多かったのも、とても素敵な会だなと思いました。継続を望まれているということですし、付箋を貼っていくあの形もすごく良かったです。参加したことで私も知らない方と知り合ってお話しすることによって、市民としての交流もできましたし、意見交換もできてとても良かったなと思います。先ほどの「図書館は本の置き場ではない」という言葉はとっても素敵なので、図書館のどこかに貼っておいて欲しいなと思いました。ありがとうございました。
- 委員：私も当日参加したんですけども、さっき館長がキックオフとしての機会だと仰っていましたが、ワークショップは、後どのぐらい、何回開催

される予定でしょうか。分かれば教えていただきたいと思います。

○事務局：はい。本格的な議論は令和8年度から始まるかと考えております。

今のところ、あくまでも合意が得られている訳ではないんですけども、事務局としましては、令和8年度、9年度で基本構想、どのような機能を盛り込むかなど、ざっくりとした構想を作るために、市民ワークショップを3回から5回ぐらい実施したいと考えております。

やり方については、先日のシンポジウムのような形にするのか、或いは予め市民の中から決まった人数で選んで、選ばれた特定の方が3回とか5回議論を重ねていくとか、様々なやり方があるようですので、他市の事例も参考にしながら進めていきたいと思います。ただ、直接市民の方が意見と言える場自体は、引き続き確保していきたいと思います。ワークショップのメンバーを固定するメリットとしては、先ほど委員からもありましたように、例えば年代とか、どこに住んでいらっしゃる方なのかとかを考慮して、いわゆる市民の縮図を作るような形でメンバーを選べるといいのかな、という、まだ1つの案ではあるんですが、そういった意見も出ているところでございます。

ただ、今確定しているのは、令和8年度9年度で基本構想を策定していく、ということです。基本構想の先には基本計画がありますので、基本計画策定の段階でもそういうワークショップはおそらく実施していきながら、その際にはさらに具体的に、こういう機能を入れましょう、本を何冊入れましょう、面積はどれぐらいしましょう、席はいくつにしましょうっていう詳細を決めていく形になると思うので、その際には細部に渡った御意見をいただけるような、ワークショップのようなものを実施する必要があるかなとは考えております。

○委員：では、あえて今後のために言わせていただくと、講演はとても良かったです。やはり新しいものをこれから作っていくことに対して、専門家の

先生のお話や、ひらくの染谷さんは実際に図書館を使っている利用者としてのお話もあったので、聞いている私たちにとっても頭の中でどういうものを目指して、市民を巻き込むような、市民のための施設がどうやってできるのかっていうのを想像できるような講演でとても良かったです。

ただ、後半のワークショップは、準備不足と言えば準備不足だったと思う。参加者としては、図書館の職員から何が求められているのかがちょっと分かりづらかった。短い時間で意見を引き出せるように、グループに入っていた私が上手くできたら良かったのかもしれませんが、よく飲み込めていなかったで、整理するのに時間がかかってしまいました。初対面で色々な年齢の方たちがいるのに、意見をどうやって絞っていったらいいのか、それを掴むまですごく時間がかかってしまって、それが残念でした。このシンポジウムの反省を生かして、どういうふうにしたら能率良く、求めていることにもっと早く、初めからスタートできるかというのを、ちょっと検討したほうがいいかなと思いました。

○委員：お座席はどういうふうに決められたんですか。皆さんのグループ分けのお座席は。

○事務局：はい。グループ分けに関しては、年代と性別で偏りがないように混ぜていました。

○委員：そうですね、私も混ぜていただいて良かったと思いました。お互い年齢が違うので、まずは表層を引き剥がすというか、どういう意気込みで来たのかとか、その焦点が合うまでにすごく時間がかかってしまって。最後の方に若い人たちがどんどん話してくれて、それでいろいろ考えてくれているんだなと分かって。結局、その若い方に発表を任せてしまいました。もっと早くその段階に行けたら良かったなという悔いはあります。

○委員：それで言うと、私が入ったAグループは私が皆さんの表層をさっさと剥がして、ぐいぐい話を出してもらおうようにしちゃったんですよね。私の

場合、偶然ですけど書店の方も同じグループにいらして、いい感じのコンビネーションで進めていきました。1人でも、話を持っていける人を席割りのときに潜らせておくのはいいかもしれないですよ。

○委員：事前に誰がどこに座るのがわからなくて、そのテーブルに座ってみて初めて誰だかわかる形だったんですよ。一体何の役割でこのグループにいるのかっていう認識もなく私は座っていたので、私はやっぱり事前に知っておきたかったな。

○委員：グループによっては、発表の紙の書き方が見づらかったりしているので、やっぱりそれも説明不足によるものなのかなと思いました。

○委員：確かに、初めてこういうワークショップを体験する方にはちょっと説明不足だったかなと感じます。私はずっと以前に市役所の方でのワークショップに参加させていただいたことがあって、充実していて楽しかったので、是非と思って来させていただきました。どなたか進行役の人をグループの中で決めて、その方が進めていただけますか、だけでもいいし、あんまり沢山の要求を急にされても困るので、本当に1つ2つ、グループで話し合える、やりやすいようにする説明がちょっとあったら良かったかなと思っておりました。今後に生かしていただければと思います。

○会長：多分私たちが一番知らないんじゃないかな、KJ法というか、こういうやり方が分からなかったな。

○委員：付箋が私の目の前になくて、後になって気付いて。

○委員：どちらにしてもあれだけ発表場所から席が離れると、字まで読める訳ではないから、どう書かれてもいいんじゃないかとは思いますがね。なかなか会場全体に見ていただくような字を書くのは難しいですよ。

○会長：確かに参加者が決まった時点でワークショップのやり方について事前に文書を送っておくとか、そういうこともできたかなと。或いは、もう事務局主導で、このグループは誰さん中心で進めてくださいと、予め委嘱し

てしまう手もあったかもしれませんね。最初は初対面で遠慮してしまうから、うまくまとめられなかったりするものもあるので。

○事務局：いろいろとありがとうございます。我々も経験のない中で、御迷惑をおかけしたことは事実でございます。キックオフという言葉を経験して使ってしまったんですけども、キックできたのかな、空振りだったのかなみたいな気持ちも若干あります。今回は全体で3時間だったんですけども、来年度開催する際には半日程度、4時間ぐらいは必要かなと思っています。最近コミュニティスクールの会議をはじめとしたいろいろなところで「熟議」という言葉をよく使うようになりました。ですから皆様が事前にいろいろ考えてきていただいて、御準備いただいた上で臨んでいただいて、さらにその議論を深めていくという形をとるためには、もっと時間も必要ですし、先ほど御意見いただいたように、グループの中である程度進行役、まとめ役というか、ファシリテーターっていうのがかちょっとわかりませんが、そういった方たちを今後考えていく必要はあるかなと思います。基本構想の策定支援業務としては、コンサルに委託する形になります。その中から人員を出していただいて、グループワークをリードしていただくとか、いろんなやり方があるかと思います。KJ法とかNM法とかブレインストーミングとか、初めてお聞きになる方、やり方が分からない方もいると思うので、最初から御説明して、みんなで意見が出しやすく、まとめやすくなるように工夫してまいりたいと思います。我々もまたいろいろと調べてやっていきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

○会長：コミュニティスクールの話し合いを視察したことがありますけども、あれなんだなと。そういうやり方でやっているんだなと実際に参加してみてもわかりました。やはりしかるべき人物をある程度決めておくとか、或いはこういう方向に進めてくださいね、というのを前もってお知らせするのが良いかもしれませんね。次回開催するとしても、またメンバーは変わっ

てしまいますよね。同じメンバーが参加するわけではないでしょう。

○事務局：そうですね、今回御参加いただいた方にまた来年度御参加いただくというわけではありません。来年度の回を重ねるものは、仕切り直しというか。

○会長：参加してくれる方たちにはぶっつけ本番の形になるので、何かこう、一本筋が通ったものを用意しておく必要がある。そうすればもっとスムーズにいくかなという気はします。

○事務局：ですので、毎回同じメンバーで何回かやっていただくという形の方が、もしかするといいのかもしれませんが。メンバーが変わると、前に話したことがゼロに戻ってしまって、また一からやり直しになってしまうので。熟議を重ねていくと、より高みを目指せるのかなと思います。

○会長：ある程度メンバーを固定してしまうということですかね。

○事務局：そういう方法もあるのかなと。

○委員：協議会委員として発言する機会も今日が最後なので、シンポジウムに参加して、新しい図書館についてずっと考えてきたことを振り返りながら、一番気になっていることをお聞きしたいんですけど、シンポジウム当日の、市長からの新しい図書館についてのお話で発言されていたのは、研究学園都市つくば市にふさわしい新しい中央図書館の建設に向けて、ということなんですけど、私としてはすごくふわっとしている一言だなと感じています。まず、研究学園都市ってどこを指すのかなっていう。「研究学園都市」って、イメージ的には、桜地区、谷田部地区、研究学園、吾妻、並木辺りなんですけれども。そこだけを見た図書館なの？と思います。

市民から意見を集めること、意見を聞くことはすごく大事ですし、ああいうシンポジウムを重ねていくこともとても大事だと思うんですけども、今現在の感覚で言うと、市からの、なぜ図書館を作るのか、どういふふうを考えて図書館を作りたいと思っているのかっていう情報発信の量が

すごく少ないと思います。市からの意見を聞いて、市民がそれを取捨選択していくっていうこともできるわけですし、その理念に沿ったものを考えるのであればこういうことだな、と意見を述べていくこともできると思うんですけど。今の段階では、本当にふわっとしたものに対して、「私はこう思います。こういうのが素敵だと思います」とか、そういう意見だけになってしまうのが残念だなと思うので、図書館であったり、市長であったり、行政の方から、もう少しだけ詳しく、なぜ図書館が必要だと考えているのか、どんなものをどんなふうに動かしたいと思っているから建てたいと思ってるんです、ということも、もう少し長い言葉で、具体的に説明してほしいと思います。柱となる考え方、理念があるかっていうところを聞いていきたいので、言語化して伝えて欲しいなど。それを受けた市民が考えていく方が、さらに深い話し合いができるんじゃないかなと感じています。以上です。

○事務局：今回どうして新図書館に関する議論が出てきたかというところ、令和5年度市議会の予算決算委員会というところで、提言が出されました。一部抜粋なんですけども、「研究学園都市つくば市にふさわしい新しい中央図書館の建設に向け、構想の検討を行うこと」。このような提言が出されて、これを元に我々は動いております。明確に言うと、「筑波研究学園都市」というものは法律で決まっています、昭和39年に閣議決定された後から、法律に基づいて整備されていますので、どのエリアが該当するののかについては明記されております。ただ、研究学園という駅ができて、研究学園1丁目から7丁目までの住所も出来たので、それで分かりづらくなってしまいましたが「筑波研究学園都市」というのは、国が指定したエリアです。

その辺りの言葉の整理も含めて、理念や、骨太の方針みたいなものは、基本構想の検討の中で出てくるかなと思います。また、どこに作るのか、

場所の検討もしないといけませんので、基本構想をつくりながら、つくば市としての考え方をきちんと整理をしていこうと考えております。

○委員：これからなんですね。

○事務局：これからです。

○会長：ありがとうございました。次の5番に行かせていただきます。新たな図書館の整備検討に関するインターネットアンケート調査の結果報告について、事務局からお願いします。

〔議事5 会議資料説明（省略）〕

○会長：はい、意見や感想がありましたらどうぞ。

○委員：ありがとうございました。アンケートの結果を見せていただいて、先ほど委員が仰ったように、どうして新しい図書館を作るのかという目的がまだ皆様に伝わっていないのかなということを感じたので、なぜ現状の中央図書館や分館だけではサービスが行き届いていないのか、そしてなぜ新しい図書館を作る必要があって、どのような方に来てもらいたいのかという説明をもう少ししたほうがいいのかと思いました。

あと1点、電子図書館のサービスをもっと拡充したほうがいいのかという御意見があったかと思いますが、やっぱり一部の方にしか電子図書館のサービスというものが知られていないんじゃないかなと少し思いました。これは他の図書館の事例になってしまうんですけど、以前札幌市の中央図書館に行かせていただいたときに、図書館内にタッチパネル式の大きなタブレットがありまして、そこで電子図書として絵本や雑誌など、いろいろな電子書籍が閲覧できるようになっていて、館内で電子図書を使えるようになっていました。予算的に厳しい面もあるかと思いますが、館内で電子書籍を利用してもらうことで電子図書館サービスを知ってもらう工夫をするのもいいかなと思いました。以上です。

○委員：はい、考えがまとまらないまま話し始めるんですが、新しい図書館が

必要かと言う問いに対して「わからない」とした理由の、情報不足という項目の中で、「自分は満足しているけれども、他の地域では不便なのかもしれない」という答えがあって、素晴らしいと思いました。さすがつくば市で生活している方のレベルは高いなと思ったんですが、新しい図書館を作ることに反対であっても、こういう他の地区などの事情が分かれば、「そうだよね、このままじゃ不公平だよね」という理解をする方向に行く可能性もあるということが、この回答から見えた気がしました。

アンケートに答えている方は、基本的に図書館に来たり、関心を持っている方なわけで、それ以外の方は、図書館がいるとかいないとか以前に、そこまで関心を持ってないよという方だと思うんですよね。それでいきなり図書館が建ったら「こんなところにお金を使ってたの」と後からむっとなしたりとか、理解が得られないようなことも出てくるのではないかと思います。なので、潜在的な利用者を増やすことも考えながら、建設に向かっていくのが大事だと思います。どこに図書館が来るのかは分かりませんが、懇話会で話し合ったような図書館の空白地帯の話もありましたが、例えば自分の足で行けないようなところにしか図書館がない人もいて、それって情報の取りにくさ、ですよ。それってすごく不公平なことだから、そこを埋めるためにも新しい図書館が必要なんだとか、図書館利用に関して不利な人の情報についても分かりやすく言っていくべきだなと思いました。すごく可能性を感じたアンケートでした。

○委員：今お話を聞きながら思ったんですが、「こんなのが出来たの」「こういうところにお金を使ってたの」となるような人たちが、それでも行ってみようと思うような施設になることを願っています。図書館という名前で、今まで興味なかった人もそこに行って、行ったついでだからちょっと本読んでみようかなあとか。そういう場所になって、新たな人たちが集まってくるような、そういう施設になるといいなと思いました。

○委員：今回のアンケートのこの部分に感動したきっかけを思い出したんですけども、筑波の交流センター図書室が年齢の高い方にすごく利用されているという話を、この協議会の中で以前お聞きしたんですが、それは私にとってはすごく意外なことだったんです。というのも、私筑波の交流センターに週末の昼間の時間帯によく行くんですが、お年寄りの方をあまり見かけないんです。その時間帯は若い方と、お仕事のない週末にいらしているような元気な男性の利用ばかりで、高齢の方を見かけたことがなかったので、平日の利用の仕方は違うんだなと思ったんですよね。平日に図書室を利用する方っていうのは、本を読みに来ているわけではないのではと想像して、筑波交流センターはホールも併設されていますし、そこに来た人が図書館、図書室を利用しているんだろうと思ったんですけど、やっぱり複合施設の良さというのは、そのついで利用ができるっていうか、行った先でたまたま図書館があつて、寄ってみようっていうきっかけがすごく大事だなと思います。新しい図書館は、そういう誘因がいろんな市民を集めるためにも、あつて欲しいなと思っています。

○会長：新しい図書館が必要ないという意見は、必ず出てくるでしょうね。ですがマイナスな方に対して、これから事務局がいかに理解を得ていくか、理解してもらっていくかということかな。図書館を作るということは市の決定で進んでいるわけですからね。それをいろいろ情報が不足していてマイナスな意見になっている人もいるし。これはここで言われてもちょっと難しいね、他の優先施策がある、高校設立、給食無償化って、これはちょっと分からないんだけど、でもそういうマイナスな意見もあるということはいいいことなんでしょうね。時間をかけて、理解を得ていくしかないですね。

それでは残り7分になりましたので、1人1回ぐらいずつ発言をしてください。

○委員：新しい図書館がいらぬとか、その関連で、真岡の monaca に行ったときに、市長選の話も出ましたよね。建設反対の候補と賛成の候補で接戦になって、僅差で勝って実行した。真岡市の場合は、施設ができる前はいらぬと言っていた市民の方が、今は旧図書館よりも3倍の入場者数になっているんですよね。そこがポイントだと思うんですよね、やっぱりあそこはバリアがなくて入りやすい。だからいろんな人が立ち寄っていて、結局「いらぬ」と言っていた人たちもその中に入っていると思うんですよ。だからそういうような施設を実現させることも可能であるってことですよね。

○委員：今のお話に通ずるところで、極端な言い方になりますが、つくばらしさというよりは、相当の予算を使って作るわけですから、満遍なく取りこぼしのないような施設、他の市町村と似通っているとと言われても、いいものを取り入れた形のものを作ることを目指される方が、個性あるそのつくばらしさで云々ということよりもむしろ大事じゃないかと私は思いました。

○委員：ちょっと関係ないかもしれませんが、最近気づいたことを申し上げます。私が児童書をよく読むんですが、読む本、読む本が佐藤さんの寄付で購入しました、とラベルが貼ってあって、寄付でこの児童書を買っていますってということなんですけども、すごい効果のある宣伝だなとか、いいことだなんて思いました。調べたらホームページもこの方から寄付をいただきましたみたいな案内が載っていて、そういうことがあったんだと思いました。

あと、来年度の会計年度任用職員の募集について拝見しましたが、大変お時給がよろしいと思えました。優秀な人材が集まると期待していますし、そういう方向に舵を切ったんだなと感じました。新図書館に向けて予算の確保に関して、つくば市は企業を誘致してますよね。企業の協力を得

るのも手では、というふうに思っています。

○委員：先ほど、考え方を指し示して欲しいということも申し上げたんですけど、もう1つ、図書館の考え方が変わってきているということで、例えばゾーニングにしても、段階的なゾーニングを作るところもあれば、ぎふメディアコスモスのように一切なし、壁なし、ゾーンを分けないという考え方もあって、音がして当然、会話をしてなぜ悪いの、というような。例えば北欧だと、図書館は会話しなければならない場所であるということを、図書館法で決めたんですよね。そこまで振り切る考え方もある。そうすると分類法も、十進分類法でいいのか、資料の収集方針も徹底して読まれるものだけを買うという考え方もあるし、スタンダードのものは最低限揃えるべきだという考え方もあるし、ゼロから考えることもできるんですよ、と提示していただくのもいいのではないかなと。なかなかそこら辺の情報収集が一般の市民ではできないことなので、考え方を開くというか、考える材料をもう少し図書館の方で提供していってくださるといいんじゃないかな、面白いものができるんじゃないかなと思います。

○委員：意見に関しましては議事進行の中で申しましたので特にないんですけども、今回私ヨモッカで、お楽しみ本占いというところがすごく気に入っちゃって、こういうのって小学生の女の子とか好きなんですよね。ちょっとこうした遊び心のある、上にぶんちゃんが出て「遊びに来てね、待ってます」みたいな吹き出しもついていて、すごくいいなと思いました。これからもこのヨモッカを沢山の方に見ていただいて、それでちょっとクスクスと笑えるゆるいところも工夫としてあるのがすごく素敵だなと思ったので、これからもヨモッカを応援していきたいと思っています。

○委員：今日はありがとうございました。皆様の御意見を沢山聞くことができ、良かったですし、まだまだ考えることがたくさんあるんですけども、それは館長さんはじめ、職員の皆さんがもっと考えていることだし、市長

さんとしては全体を言わないといけないので、ふわっとした言い方で大きく仰っているんだらうなと思っていますが、何かちょっとでも役に立つ考え、意見が言えたらなと、また勉強していきたいと思います。

○委員：本日はありがとうございました。色んな資料を出していただいて、特に新しい図書館が要らないと思う方の御意見がすごく刺激的でした。個人的な仮説なんですけど、そういった方々ってきっと、図書館って静かで、本を読むところ、っていう伝統的な日本の図書館のイメージを持ってらっしゃる方なのかなと思っています、そういった方々からしたらきっと、そうしたら自分で買ったり、電子図書を買って、スタバで読めばいいやっていう考えがあるのかなと思っています。そういった方にどうやって図書館に来てもらうことができるかなと考えていました。図書館って、紙の本、電子の本、どちらもですけど、そうしたメディアから知識を得るとともに、そういったメディアを介して人ともコミュニケーションをとることができて、新しい知識の交換ができるところが利点なのではないかなと思います。そういった図書館らしさってなんだろうっていう、新しい視点からとらえ直すことができたらいいなと思いました。

○委員：本日はありがとうございました。私も今日参加させていただいて沢山学ぶことができました。新しい図書館を作る機会というのは、生きているうちに遭遇できるかどうかという大変刺激的でいい機会だと思うんですけども、その中で「私たちの図書館」というような意識を作っていくことがとても大事だと思います。図書館の前の市民の意見を付箋に書いてもらって張り出して共有するといった試み効果的だと思うので、ぜひ継続していただければなというふうに思いますし、いつでも皆さんもお声をお待ちしていますという姿勢を続けていけば、図書館の新しい像というのを発信しながら受け入れていくことができるのかなと思います。ぜひ、新しい図書館に向けていい空気が作れればと思いますので、今後ともよろしくお願

いたします。

5 閉 会

○会長：ありがとうございました。事務局の方にお返しします。

○事務局：はい、本当にありがとうございました。先ほど会長の方からもありましたが、新たな図書館が必要でないと思う人、こういった御意見もあるということで。図書館の収集方針というのは、偏った意見だけを収集することはなくて、あることに対して賛成の本があれば反対の本もきちんと集めて、読んだ人がどう判断するかということで、偏りができてしまったらまずいという基本姿勢でやっております。そういった面からも、様々な意見を拾い上げて、理想は26万人の市民全員に満足いただける図書館なんですけど、なかなかそこまではいけないかと思うんですけど、そこに近づけるように引き続き努力していきたいなと思っております。

時間も過ぎてしまいましたが、この後もし時間がございましたら、中庭を2階からでも眺めていただければと思います。

また、今日追加の資料としてチラシをお配りしていますが、筑波大学による認知症に関する展示を当館1階の展示コーナーでやっております。またこれに合わせて、つくば市の地域包括支援課も関わっているんですが、布川佐登美さんという方に御登壇いただきまして、認知症に関する講演会を今月21日土曜日、アルスホールで行います。お時間がありましたら是非御参加ください。

それでは、まとめに入らせていただきたいと思います。この度、視察にお伺いした中で印象的なお話をしてくれた館長さんがいらっしゃいました。我々は多世代の方に利用、交流をしていただくようなイメージをしていて、前面に出すのは高齢者サービスや子ども向けのサービスだというこ

とは考えていて。子ども図書館に関して具体的にお話しすると、武雄市が敷地内に別棟で、子ども図書館を後から作ったんですね。

よく御意見としていただくのは、親御さんが自分の子どもの声を非常に気にしてしまって、図書館に足を運びにくいという御意見です。今、当館はワンフロアですけど、子どもの声がうるさいという意見はほとんどないので、あまり周囲が気にしている訳ではないと思いますが、親御さん自身が気になってしまうようなので、それこそ、階を分けるとか、武雄みたいに別棟にするとか、工夫はやはり必要なのかなと思っています。

また、図書館単体で考えるのではなくて、交通やまちづくりとか、そういう視点でも考えないといけないと強く感じました。ただ単に「この土地が空いているからここに大きく作ればいいんでしょう」ということに留まらないなっていう。やはり視察に行ってきたてお話を伺うと、そういう視点もありましたので、是非今後活かしてまいりたいと思います。

閉会にあたりまして、皆様方には任期2年ということで、本当にお世話になりました。ありがとうございました。特に今年度につきましては、新しい図書館の検討の方に議論の時間を費やしてしまいまして、中央館はじめ図書室等の現行の図書館の議論が少し深まらなかったかなという反省はあるんですけども。ただその中でも、限られた時間の中でいろいろと御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

令和6年度から始まった今回のこのメンバーでの協議は、本日が最終回となります。先ほどお1人お1人からお話もいただきまして、本当にありがとうございました。本年度の5月には、新しい図書館整備について市長との意見交換を行うことができました。そしてシンポジウムへの参加、視察など、例年にはない御協力を賜りまして本当にありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。

私事ではございますが、3月をもちまして役職定年ということになりま

した。7年間館長をやらせていただいたということで、本当に長い間皆様に支えていただいたと思っております。4月以降の人員体制については全く知らされていないので、後任に誰が来るかというのにはわかりませんが、この良い流れを途切れさせることなく、次の館長につなげていけるようにしっかりと引き継ぎをして参りたいと思っております。

委員の皆様におかれましては、今後も引き続き御指導、御鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。図書館サービス向上のため、ともに力を合わせて、市民のために議論していければと思っております。本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。

では、以上をもちまして、第4回図書館協議会を閉じさせていただきたいと思っております。本当にどうもありがとうございました。

令和7年度(2025年度)中央図書館重点事業 中間報告

○中央図書館リノベーション

令和2年3月に図書館懇話会から提言のあった滞在型図書館を実現するための改修を行う。

令和7年度は、中央図書館中庭にウッドデッキを設置し、飲食や会話も可能とした新たな居場所となるスペースを設ける。館内との出入口を設置し利便性を高め、サードプレイスとして滞在型の図書館サービスができるようにする。

また、こどもコーナーを中心とした館内の改修について検討を行う。

【事業報告】

中庭へのウッドデッキ設置工事が進んでいる。令和8年2月末までに完成・引き渡しの予定である。(供用開始時期については検討中)

館内では制限されている飲食や会話などを可能とし、利便性の向上を図るとともに、滞在型の図書館サービスに対応できるものとする。

こどもコーナーを中心とした館内の改修については、設計業務を委託し検討を継続中である。

○複合機能を持つ新たな図書館の整備検討

令和5年度に、図書館運営についてつくば市議会から提言をいただいた。内容は、研究学園都市「つくば市」にふさわしい新しい中央図書館の建設に向け、構想の検討を行うこと。スピード感を持って新しい図書館の建設を進めていただきたいというものである。また、令和6年10月に、市長公約として「複合機能を持つ新たな図書館の整備検討」が出され、「市長公約事業のロードマップ2024-2028」が示された。

これらを受け、令和7年度は先進事例の調査を行うとともに、アンケート調査や図書館イベントなどを通じて市民意見を集める。合わせて、新たな図書館建設について市民意識の醸成を図っていく。

【事業報告】

令和7年度は、年間を通して先進事例の視察を行い、情報収集を行った。

市民意見の収集に関しては、ライブラリーピクニック(令和7年5月17日・18日開催)やまつりつくば(同年8月23日・24日開催)の中央図書館ブース内にて、新たな図書館に関する簡易アンケート調査を実施した。また、インターネットアンケート調査を令和7年8月23日から12月31日まで実施し、676人から回答を得ることができた。

また、12月6日には、市民意見の聴取及び市民意識の醸成を図ることを目的として「共に創るつくば市図書館：未来を描く市民参加型シンポジウム」を実施した。

○情報発信の強化

ホームページ、市報やヨモッカなどの紙媒体などを用いて随時情報発信に努めているが、十分とは言えない状況である。

令和7年度は、ホームページをリニューアルし、情報アクセシビリティの向上や内容の充実を図り、図書館利用者の増加につなげる。

また、つくスマアプリのさらなる活用や図書館情報紙の充実を図っていく。

【事業報告】

令和7年7月にホームページの全面リニューアルを実施した。本リニューアルでは、情報の体系的な整理によりページ数を削減して一覧性を向上させるとともに、ピクトグラムを活用したメニューバーの導入などにより、ユーザーインターフェースを大幅に改善した。また、バリアフリー対応に関する専用ページを作成し、様々な利用者が図書館を利用しやすい環境づくりに努めた。

また、つくスマアプリにおいては、自動車図書館の運休情報やイベント、アンケート実施に関する通知などを市民に直接送信することができた。

○分室のサービス向上

つくば市立図書館条例及び同条例施行規則を改正し、令和7年1月から4交流センター図書室を中央図書館の分室に位置づけ、一体的に運営することになった。このことを受け、分室のさらなる機能の向上、蔵書の充実、図書室環境の整備に取組み、利用者満足度の向上を図る。

【事業報告】

従来と同様、中央図書館職員が分室を定期的に巡回し、情報交換を行っている。本年度は、分室の蔵書状況を確認の上、資料の入替えや整理を進めた。また、備品の所管を整理し、必要備品の手配を進めている。

中央図書館職員及び図書館協議会委員による先進事例視察の報告

1.視察基本情報			
視察先名称	真岡市複合交流拠点施設monaca		
所在地	栃木県真岡市荒町5131番地（真岡鉄道真岡駅から徒歩20分、真岡市役所横）		
視察日時	令和7年(2025年)10月14日(火)14:00-16:30		
対応者	統括責任者、副統括責任者・地域交流センター責任者(元真岡市職員・monaca整備等担当者)		
視察者	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館職員： 柴原館長、中川館長補佐、 村松主事 こども政策課職員(3名) 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館協議会委員： 坏会長、宇川委員、齋藤委員、鈴木委員、 鷲田委員、鐵見委員、松尾委員 	

2.施設概要			
複合施設(機能)	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援センター(相談室、こども広場) 地域交流センター(貸室、ギャラリー) カフェ 		
事業費	約38億円 ・建設工事費:29億9,640万円 ・設計調査費:2億5,850万円 ・備品購入費:5億5,330万円 物価高騰による変動により、4.5億円増 ※上記には維持管理・運営業務委託費を含まない ※収入:国庫補助金+地方交付税約21億円、市積立金約10億円		
設置形態	指定管理・DBO方式	蔵書数	約21万冊
延床面積	図書館部分2,555㎡/施設全体7,144㎡	座席数	約450席

3.整備検討プロセス	
【整備経緯】 市庁舎移転に伴う旧庁舎及び体育館跡地の活用方法検討の中で、老朽化(空調、雨漏り)が進む図書館、子育て支援センターの建替え案が出た。	
2017年6月	周辺整備検討開始(敷地活用の用途検討)
2019年3月	基本構想策定
2020年5月	基本計画策定
2020年12月	補正予算
2021年1月	事業者募集開始
2021年12月	議会議決(契約)
2023年3月	着工
2025年1月	開館

3.整備検討プロセス

【DBO方式の採択】

国からの補助金(都市構造再編集支援17億円、地方交付税(合併推進債)4億円)を活用するため、市が資金調達を行い、運営を民間に委託するDBO方式の採択に至った。
市長の意向により、設計と施工を一括で契約した。大きな企業に委託したことで、設計等の早い段階から工事のための必要資材を確保でき、物価高騰による影響を抑えることができた。

【まちづくりプロジェクトの一環としての活動】

市民主体のまちづくりに関する講座やイベント(工事現場の見学会、仮囲いに絵を描く催しなど)を開催し、市民が関心を持ち、主体的に関わってくれるよう工夫した。

4.主な特徴と視察項目

【ゾーニング・空間づくり】

- 階やエリアによって雰囲気が大きく異なっている(1階リビングフロア、2階もおかっ子フロア、3階ライブラリーフロア)。
- 1階イベントスペースではコンサートなど音が出るイベントも開催でき、飲食可能。3階ライブラリーフロアの入口には自動ドアが設置されており、1階のイベントで発生する音や2階の子どもの声などが入らない設計になっている。



1階イベントスペース
フードコートのような雰囲気



汁物禁止の表示



3階ライブラリーフロア入口
音が出るイベントのカレンダー

- 3階ライブラリーフロアの中でも、場所ごとに雰囲気が異なる空間づくりが行われており(「昼」「夜」のイメージなど)、利用者が自身の好みに合わせて居場所を選択できる。
- ヒーリング音楽が流れ、曜日・時間指定でアロマが出るスポットがあり、利用者からは好評とのこと。



川のせせらぎ音声が流れるソファ(3階)

- 利用者が自然と互いを意識できるように間仕切りのない空間設計となっている。大人が勉強している様子を子どもたちに見せたいという思いから、会議室の窓のスクリーンは下ろさないようにしているとのこと。
- 職員による案内では不足するものについては、ポスターをサインスタンドに設置して対応している。(貼り紙をしない。)
- 余白を作っておくことを重視しており、2階から3階の間にある書架は、現在は空きスペースとして絵画の展示などに活用している。図書館の蔵書は増加していくため、将来を見据えて空きスペースを用意しているとのこと。



1階入口すぐ ホテルラウンジのような
くつろいだ雰囲気



2階～3階 空き書架を展示スペース
としている



2階もおかっ子ひろば
ボールプールや木製玩具、プロジェクショ
ンマッピングで遊べるコーナーもある

【もおかっ子ひろば】

- 複数ある子ども広場のうち、「もおかっ子ひろば」は有料(市内100円・市外300円)。有料となることに対して開館前には批判があったが、開館後は落ち着いたとのこと。

【ICT・設備面】

- 資料の中にICタグが入っており、資料の貸出は自動貸出機で利用者自身が行う。資料を入れるカートや、持ち運び用のトートバッグの貸出も可能。

5. 質疑応答

【担当者について】

- 元真岡市職員で、県庁舎の移転交渉(現市庁舎所在地)、現市庁舎の設計等も担当していた。monacaの運営を将来的に市民が立ち上げた法人に移行させるため、転職し、受託者シダックスに移籍した。
- monacaの担当部署は複数に分かれている。イベントの内容によっては担当部署が複数になる場合もあり、受託者側としてはコミュニケーションが取りづらいとのこと。

【建設可否を巡って】

- 当時の市長選において、図書館建設に反対する候補が「図書館に40億円かける代わりに市民に1人5万円を給付する」と公約を掲げ、建設賛成の候補と接戦になったという。

【利用者の声】

- 資料が点在しているため、「本がどこにあるかわからない」という問い合わせはあるが、職員がご案内することで対応している。
- 1階イベントスペースでイベントを開催している際に「図書館でこんなイベントをするなんて」という批判を受けたことがあるが、そのような場合には、施設の運用方針をご説明の上、3階のライブラリーフロアをご案内している。
- オンラインミーティングができる個室の要望があるとのこと(現在、会議室の使用要件は2人以上)。

【市民との協働】

- 開館前(整備段階)から市民と協働でイベントを開催することが多く、開館後も同様に積極的にイベントを企画し開催している。
- monacaのサポーター「モナサポ」には、イベントの手伝いや書架整理などをお願いしている。「館内清掃中」というイベントでは、毎月1回、小学生を中心に数人で棚上の掃除を行っている。

新図書館整備に向けた先進事例視察報告（概要版）

1. 視察の目的

市長公約事業「複合機能を持つ新たな図書館の整備検討」を進めるにあたり、近年開館した先進事例や代表的な成功事例における整備プロセスや複合機能の併設に関して参考情報を収集する。

2. 視察対象館概要（設置年次降順）

「※」……分館

「別添参考」……令和7年度第1回図書館協議会にて参考資料として使用した「Casa BRUTUS」No. 299（2025年3月号）掲載ページ

No.	施設名	自治体名	市域(km ²) (図書館数)	開館年	延床面積 (m ²)	蔵書規模 (万冊)	運営形態	図書館以外の複合機能	別添参考
1	真岡市複合交流拠点施設 monaca	栃木県真岡市	167.34 (2)	2025	7,144	20	指定管理	カフェ、子育て支援(屋内外遊び場など)、地域交流センター(貸室)	74
2	小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。	新潟県小千谷市	155.19 (1)	2024	4,628	15	直営	カフェ、子育て支援(屋内遊び場)、工作ラボ、スタジオ等含む貸室	44
3	多摩市立中央図書館	東京都多摩市	21.0 (8)	2023	5,439	44	直営	カフェ、市民活動支援、貸室	86
※4	米百俵プレイスミライエ長岡(長岡市互尊文庫)	新潟県長岡市	891.26 (10)	2023	4,605	4	直営 (選書・窓口業務を委託)	カフェ、ものづくりラボ、イノベーション支援、コワーキングスペース	-
5	小牧市中央図書館	愛知県小牧市	62.81 (2+室3)	2021	8,703	30	直営 (窓口業務を委託)	カフェ、貸室	84
6	須賀川市民交流センター tette	福島県須賀川市	279.43 (1)	2019	13,698	26	直営	子育て支援(屋内遊び場、相談窓口など)、円谷英二ミュージアム、市民活動支援(スタジオ等含む貸室)、コンビニ	81
※7	塩尻市北部交流センターえんてらす	長野県塩尻市	290.18 (9)	2019	2,172	3	直営	市役所支所、児童館、スタジオ等含む貸室	-
8	ミライ on 図書館(長崎県立図書館・大村市立図書館)	長崎県・大村市	大村市 126.73 (1+室2)	2019	13,326	140	直営 (長崎県と大村市の共同運営)	カフェ、歴史資料館、ホール等貸室	80
9	安城市中心市街地拠点施設 アンフォーレ	愛知県安城市	86.05 (1+室12)	2017	9,193	45	直営 (図書館部分)	カフェ、市民活動センター、証明書交付窓口、スタジオ等含む貸室	-

10	みんなの森ぎふメディアコスモス	岐阜県 岐阜市	203.60 (2+室5)	2015	15,444	58	直営	カフェ、市民活動センター、多文化交流プラザ、ギャラリー、コンビニ	61
11	武雄市図書館	佐賀県 武雄市	195.40 (1)	(改修) 2013	3,803	25	指定管理	カフェ、書店・ショップ、歴史資料館(直営)	-
12	ひと・まち・情報創造館武蔵野プレイス	東京都 武蔵野市	10.98 (3)	2011	9,810	18	指定管理	カフェ、青少年活動支援(スタジオ、ラウンジ)、生涯学習支援センター、市民活動支援センター、有料ラウンジ	-
13	塩尻市市民交流センターえんぱーく	長野県 塩尻市	290.18 (9)	2010	11,902	42	直営	カフェ、子育て支援センター、ギャラリー、スタジオ等含む貸室、(ハローワーク、民間オフィス)	72

3. 整備プロセスにおける特徴

(1) 整備過程・担当部署

中心地に生じた空き地の活用用途として図書館が候補に挙がり、中心市街地の活性化などを目的として他施設と複合の上、整備された例が多い。

また、多くの事例で首長部局下の部署（都市整備や都市計画など）が施設整備を主導している（真岡市、須賀川市、岐阜市、長岡市、小千谷市、武雄市など）。教育委員会下の組織が主導した場合であっても、「新図書館建設推進室」など専門の室が設置されている（小牧市、長崎県・大村市）。

(2) 市民意見聴取・合意形成の手法

パブリックコメント、愛称公募の他、市民ワークショップを開催する例が多い。

自治体名	手法
真岡市	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 市民主体のまちづくり・図書館づくりに関する講演会（4回） ▪ 市民ワークショップ（2回） ▪ 開館前：現場見学会、イベント開催
小千谷市	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 小千谷リビングラボ「at!おぢや」 ※ 市民共創のプラットフォーム。関心のある人が自由に参加可能なグループワークやイベントなど、継続的な対話と活動を実施するもの
長岡市	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 機能・配置の検討段階：市民ワークショップ
小牧市	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 無作為抽出アンケート ▪ 設計段階：市民ワークショップ ▪ 中高生対象スクールミーティング
須賀川市	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基本設計段階：市民ワークショップ（25回）、地元説明会、市民活動

	団体・地元商店街団体ヒアリング、パブリックコメント <ul style="list-style-type: none"> ▪ 基本設計～開館前：「一緒につくる、考えるワークショップ」（7回） ▪ 開館前：中高生ワークショップ・現場見学会など
長崎県・大村市	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 意見募集、説明会・報告会の実施

(3) 市民との継続的な関わり

整備検討段階から引き続き、開館後もボランティアやサポーターとして市民が関わっている事例がある。「at!おぢや」（小千谷市）、「モナサポ」（真岡市）など。その他、個人登録制のボランティア団体を設立する例も多い（須賀川市、長岡市）。

4. 複合機能と空間構成

(1) テーマによる機能配置

単に併設されているだけでなく、各機能が連携している「融合」をテーマに構想・設計された事例がある。施設内の各機能が融合することにより、図書館と他機能を組み合わせた複合的な活動や「ついで利用」が可能となり、利用者が利用しやすい、付加価値の高い施設を整備することができる。図書館資料の配置場所については、図書館だけでなく施設全体の方針と合わせて検討する必要がある。

例として、須賀川市民交流センターtetteでは、利用者の行動や心の動きを表すフロアテーマ（わくわく、であう、つくる、あつまる、など全8テーマ）に応じて機能が配置されている。「つくる」のフロアには、スタジオの周辺に関連する図書館資料が配置され、相乗的な利用が見込まれている。

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。では、施設内の機能を「アンカー」（9つの部屋）、「フロート」（メインエリア）、「ルーフ」（屋上）という独自の呼称で位置付けている。アンカーには、食、響、子、発などがあり、施設内の活動の拠点となっている。

また、日本十進分類法ではなく独自に定めたテーマで資料を配架する事例もある。米百俵プレイスミライエ長岡では、3つのエリアテーマ（くらす、はたらく、ひらめく）と15個の小テーマに基づいて資料を配架し、テーマに応じた空間づくりをしている。

武雄市図書館や小牧市中央図書館では、生活に関係したテーマ（旅行、食など）に関する図書資料や雑誌が、アクセスしやすく手に取りやすい場所に配置されていた。

(2) ゾーニングの工夫

静かに読書や学習を行うための「静」の空間と、開放的な「動」の空間は、区画分けするなど、利用者が気にならないような工夫を施す必要がある。

真岡市複合交流拠点施設 monaca では、階によって雰囲気が大きく異なっており、1階リビングフロア（イベント開催）、2階もおかつ子フロア（子ども向け）、3階ライブ

ラリーフロア（大人向け）の構成となっている。3階入口には自動ドアが設置され、下階の音が入ってこないようになっている。多摩市立中央図書館でも、静寂を重視した1階は濃茶色で落ち着いた雰囲気、開放的な2階は木目調で明るい雰囲気となっており、フロア的设计によって利用者の行動を誘導している。小牧市中央図書館でも、絨毯の色などによってフロアの雰囲気を変化させている。

一方、上記のようなゾーニングを行わず、施設全体の雰囲気や運用方針によって音が許容されている事例もある。米百俵プレイスミライエ長岡（長岡市互尊文庫）では、多目的ホールや集会室からイベント等の音声が漏れ聞こえることが多いが、利用者からの苦情もなく、多少の音が許容される雰囲気作りができていているという。みんなの森ぎふメディアコスモスでは、「子どもの声は未来の声」という理念の下、子どもの声に対して理解を求める姿勢をとっている。

(3) 滞在型機能

利用者が長時間居心地よく過ごすためには、飲食可能なスペース、多様な家具、屋外スペースの活用などが有効と思われる。特に、施設内にカフェが入っている事例は多い。また、飲食に関しては施設によって多様なルールが設定されていた（カフェで購入した商品のみ持込可能、蓋つきの飲み物は持込可能、汁物禁止など）。

(4) 余白・柔軟性の確保

図書館の資料は基本的に増加するものであり、将来的な蔵書増加に備えて余裕を持ってスペースを確保しておく必要がある。視察を行ったいずれの事例においても、余裕のある書架構成となっており、展示などを行うスペースが確保されていた。

また、多様な目的に合わせて活用できるように、多目的に使用可能なスペースを設置し、移動式の家具を選定している事例があった。みんなの森ぎふメディアコスモス（岐阜市）では、開けたエントランスロビーに移動可能な家具を設置して、多数の展示を行っていた。小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。では、多様な用途に合わせて柔軟に対応できるよう、書架をレール上で移動させられる仕様となっていたり、持ち運びやすい軽量の家具を選定したりしていた。

5. 当市における整備に向けた示唆

(1) 市民ニーズに対応した魅力ある図書館

● 図書館機能の拡充

視察を行ったいずれの事例においても、ICタグ及び自動貸出機を導入しており、利用者が気軽に資料を借りられる環境が整備されていた。また、座席の利用が非常に多い事例においては、座席予約システムなどが導入されていた。当市においても、自動貸出機の導入や閲覧席の拡充については課題となっており、蔵書数の増加などとも合わせて検討が必要である。

- 滞在型、市民活動支援

利用者が長時間滞在するためのカフェや飲食可能なスペース、館内 Wi-Fi の設置、多目的に使用可能なスペースが必要と思われる。音によるゾーニングは重要であり、フロア分け、BGM を流すことによる緩和、サイレントルームの設置など、解決策は多様であるため、施設全体の方針と合わせて検討が必要である。

また、図書館機能と市民活動支援機能（会議室、多目的ホール、コワーキングスペース、ラウンジ、キッチンスタジオ、ものづくりラボなど）が複合している事例は多い。市民のニーズを考慮の上、検討を進めたい。

(2) 周辺環境に配慮した複合機能の検討

図書館機能とどのような機能を組み合わせるのかについては、市民のニーズを考慮の上、立地、利用者層、他施設の建替えの必要性なども含めて検討する必要がある。視察を行ったほとんどの事例においてカフェが設置されていたが、須賀川市民交流センター tette においては、人の回遊性や施設周辺とのつながり、周辺の飲食店への配慮などを検討の結果、カフェ導入には至らなかった。

(3) 検討段階における市民協働

新図書館の整備には多額の費用がかかるため、市民の同意を得るためには丁寧にプロセスを進める必要がある。検討段階からワークショップを複数回開催するなどして意見を収集し、積極的に情報発信を行うことによって理解を求めたい。

また、市民と協働して図書館整備を進めることで、市民と行政の新たな関係性を作り出すことも可能である。小千谷市の「at! おぢや」のように、整備段階から開館後まで継続して対話し活動するプラットフォームなど、参考になる事例もある。

(4) 職員の役割変化

先進事例においては、他組織や市民との関係構築や、イベントの企画運営、まちづくりへの寄与が重要課題とされている印象を受けた。須賀川市や岐阜市では、高い集客力が定着したため、集客した人を施設周辺に誘導することや、市民の誇り（シビックプライド）を醸成することが新たな課題とされている。

当市の中央図書館においては貸出サービスが中心となっており、職員がカウンター業務に忙殺されてしまっている。今後は ICT 技術や業務委託を活用することによって、当市における図書館の役割、図書館職員の役割を再考することについても検討していく。

6. 視察先写真紹介（一部）



■ 真岡市複合交流拠点 monaca



■ 小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。



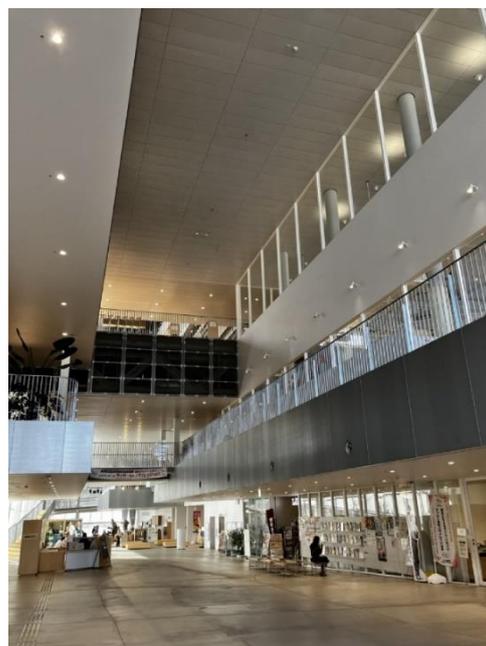
■ 米百俵プレイスミライエ長岡
(長岡市互尊文庫)



■ みんなの森ぎふメディアコスモス



■ 小牧市中央図書館



■ 須賀川市民交流センターtette

新図書館に関するシンポジウム開催報告

「共に創るつくば市図書館：未来を描く市民参加型シンポジウム」

1. 開催概要

■ 目的

市長公約事業 No. 84「複合機能を持つ新たな図書館の整備検討」に掲げられた事業達成に向けて、新図書館建設の必要性について改めて市民の理解を得るとともに、図書館を取り巻く最新の状況や市が目指すべき公共施設の在り方について市民と市で共通の認識を築くことを目指す。

また、つくば市の図書館をより良いものにするための議論を活発化させ、市民の関心を高めることで図書館整備に対する機運を醸成する。

■ 開催日時

令和7年（2025年）12月6日（土）14:00～17:00

■ 開催場所

つくば文化会館アルス2階アルスホール（つくば市吾妻2丁目8）

■ 登壇者

五十嵐立青（つくば市長）、呑海沙織氏（筑波大学副学長・附属学校教育局長教育長）、染谷拓郎氏（株式会社ひらく代表取締役社長）

■ プログラム

講演、トークセッション、参加者グループワークなど

2. 当日参加者

43人＋図書館協議会委員5人

※ 先着50人（事前申込制）のところ、申込開始から約1週間で満員となったが、当日欠席者がいたため減

※ グループワーク参加者は39人

※申込者50人の年代内訳

年代	人数(人)
0～10代	0
20代	6
30代	5
40代	5
50代	11
60代	15
70歳以上	8
合計	50

3. 当日の様子



① 講演



② トークセッション



③ グループワーク



④ 閉会

4. グループワーク

つくば市図書館懇話会提言書で示された将来構想に基づいた4つのテーマ（「青空×図書館」「カフェ×図書館」「多様性×図書館」「イノベーション×図書館」）から選択した1～2のテーマに沿って、グループごとに意見交換を行った。7グループ中6グループがテーマの1つに「多様性×図書館」を選んでおり、多くの参加者が「多様性」というテーマに関心があることが明らかになった。

グループワークの後半では、グループの代表者が会場前方で発表を行い、会場全体で意見を共有した。

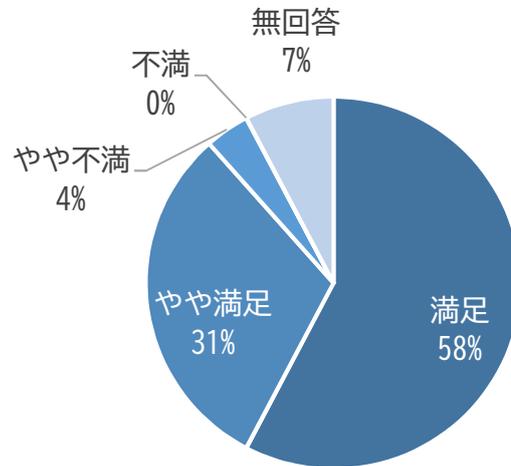
5. 今後の情報公開予定について

図書館ホームページにおいて、下記を公開予定。

- ・（動画）講演及びトークセッション
- ・ グループワーク成果物
- ・ 参加者からの事前質問に対する回答
- ・ 参加者アンケートの結果

6. 参加者アンケートの結果（回答者 26 人）

■ 総合的な満足度：



■ 自由記述（要約）：

(1) 運営面の課題

- ・ 時間不足で、全体的に討議が不十分だった。
- ・ グループワークの方法が説明不足だった。一般市民向けの事前説明、役割分担の明確化が必要である。
- ・ 会場環境（空調、マイク音量）の改善が必要である。

(2) 議論の内容に関する課題

- ・ テーマが選択制であったことが議論を制約していた。
- ・ 新しい図書館ではなく、現状の延長線上の意見が多かった。
- ・ 市民意見の聴取に留まり、市の具体的構想や実行性が見えなかった。

(3) 好評だった点

- ・ 異なる視点からの講演が参考になった。
- ・ 異なる背景を持つ人との交流が有意義だった。

(4) 今後への期待

- ・ 継続開催を求める声が多い。
- ・ 図書館の新しい役割として、単なる貸出施設ではなく、交流・社会貢献の場となることを期待している。
- ・ 正職員としての司書の充実が必要である。
- ・ 若年層の参加を促進して欲しい。



共に創る つくば市図書館

未来を描く市民参加型シンポジウム



つくば市長
五十嵐立青



筑波大学副学長
附属学校教育局長
呑海沙織



株式会社ひらく
代表取締役社長
染谷拓郎

市長公約No.84「複合機能を持つ新たな図書館の整備検討」を受けて、つくば市では新しい図書館の検討をスタートしました。

今回は、五十嵐市長、図書館情報学・知識情報基盤を専門とする筑波大学の呑海先生、「文喫」「箱根本箱」などを手掛ける株式会社ひらくの染谷さんをお迎えし、講演とトークセッションを行います。

その後は参加者同士で意見を交わすグループワークもご用意しました。新しい図書館のかたちについて、皆さんの声をぜひお聞かせください。

2025年12月6日（土） 14:00-17:00

つくば文化会館アルス2階アルスホール（つくば市吾妻二丁目8番地）

主催・問い合わせ先 つくば市立中央図書館（つくば市吾妻二丁目8番地） 029-856-4311（火曜～日曜 9:30～19:00）

障害のある方で配慮が必要な場合は、申込フォームにて必要事項をご入力ください

事前申し込み制
先着50名
11月8日12時より
*利用者登録不要



共に創るつくば市図書館

未来を描く市民参加型シンポジウム

14:00 開会

中央図書館長挨拶

登壇者紹介

講演 1 五十嵐立青氏（つくば市長）

講演 2 染谷拓郎氏（株式会社ひらく代表取締役社長）

講演 3 呑海沙織氏（筑波大学副学長・附属学校教育局教育長）

15:00 トークセッション

15:30 休憩

15:40 参加者グループワーク「複合機能×図書館」

自己紹介（1人1分）、テーマ決め、意見交換

16:20 グループ発表

16:50 まとめ

17:00 閉会

青空×図書館



すべての市民が気軽に自由に
利用できる図書館

カフェ×図書館



市民の居場所となる
サードプレイスとしての滞在型図書館

つくば市図書館の将来構想 2020

将来ビジョン ふれあい ライブラリーパーク

人と人、人と本、本と本がふれあう
公園のように自由な図書館で
地域の課題を解決し、
新たなモノ／コトを生み出す

多様性×図書館



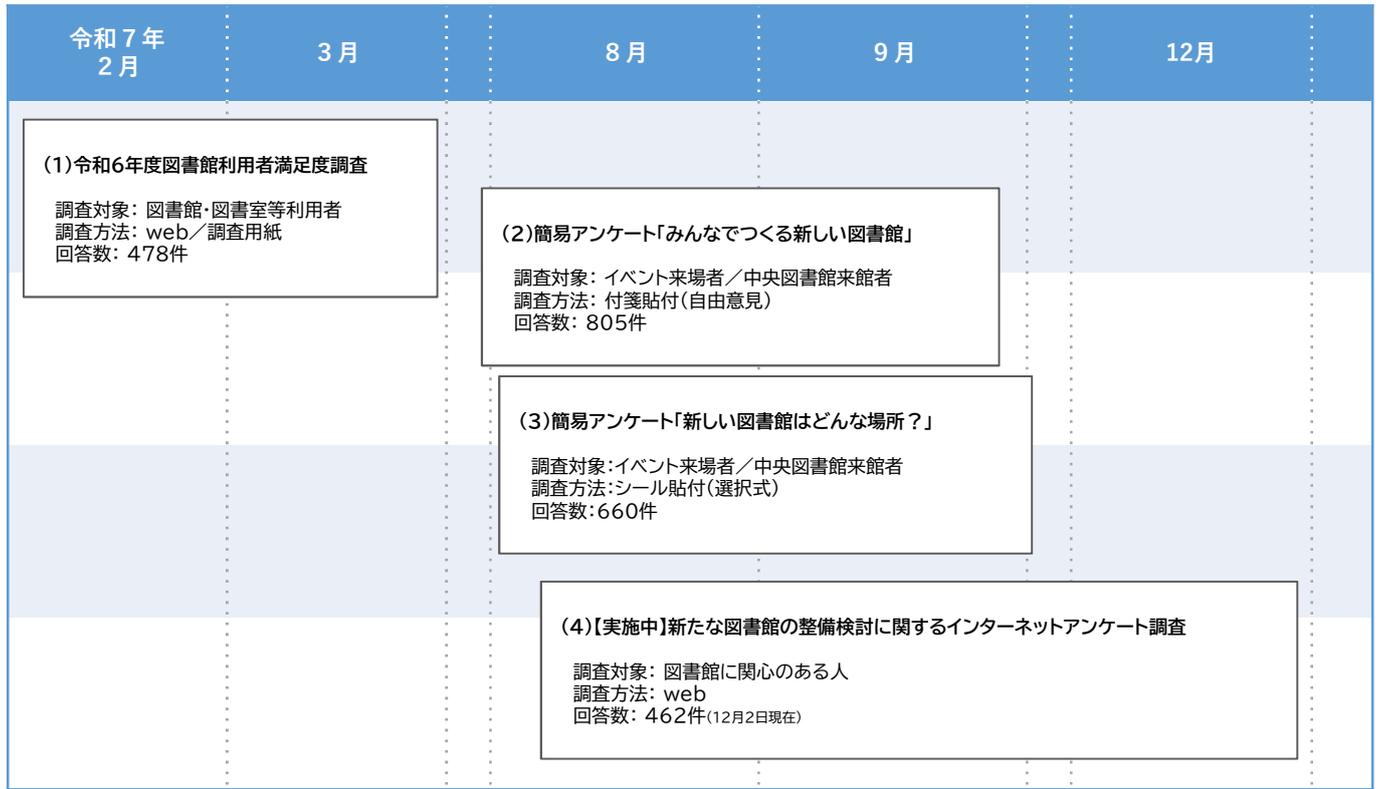
コミュニケーションを通じて
相互理解を促進する図書館

イノベーション×図書館



地域の課題を解決し
新しい価値を生み出す図書館

新たな図書館に関するアンケート実施状況



■ 結果概要①

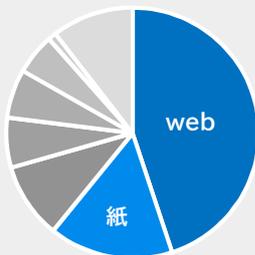
(1)令和6年度図書館利用者満足度調査

※ 毎年度実施している調査に新図書館に関する設問を追加

- 新図書館検討過程で参加・実施を希望する取組(選択式)



報告書 (PDFファイル:717.5KB)



アンケートの実施希望が多数

- webアンケート **45%**
- 紙アンケート **16%**

その他、インターネット投票、シンポジウムなど

- 図書館以外にあると良い機能(自由記述)

市民の生活に寄り添った、多様な機能を求める声

- ・ 学習環境の充実・多様な学習スタイルへの対応
- ・ カフェ・飲食可能スペース
- ・ 全世代の居場所
- ・ 子どもの遊び場
- ・ 地域交流・情報共有の場
- ・ 日常の用事との連携 など

- 新図書館の整備場所(自由記述)

多岐に渡る意見あり

交通の便が良い場所

駐車場が確保できる場所

市の中心部・研究学園周辺

周辺市街地など

地域分散

既存施設との連携

■ 結果概要②

今日も
中央図書館入口に
掲示中！

(2)簡易アンケート「みんなで作る新しい図書館」

- ※ 5月17日・18日、8月23日～31日(つくばフェスティバル・ライブラリーピクニック、まつりつくば開催日を含む)
- ※ 中央図書館出入口前(5月18日のみ文化会館アルス屋外展示場)

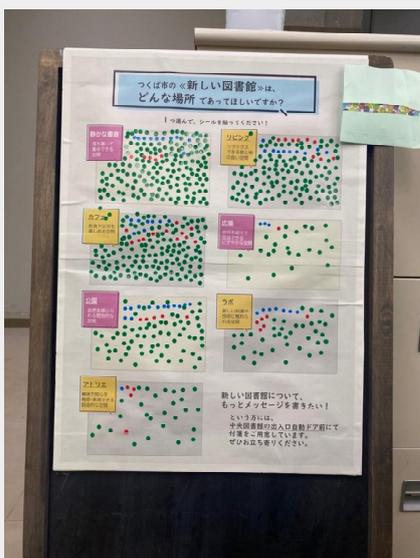


【多数寄せられた意見】

蔵書の充実、カフェ・飲食可能、駐車場の充実、騒いでもいい、落ち着ける・くつろげる、マンガの充実、閲覧席の充実、勉強スペース・個室の充実、イベントの充実 など

(3)簡易アンケート「新しい図書館はどんな場所？」

- ※ 8月23日・24日/まつりつくば会場中央公園ブース内、8月26日～9月9日/中央図書館出入口前



図書館来館者は「**静かな書斎**」が第一

「**カフェ**」「**リビング**」のニーズは共通

	まつりつくば来場者 95人	中央図書館来館者 565人
1位	カフェ	静かな書斎
2位	リビング	カフェ
3位	公園	リビング

(下記7つから1つ選んで回答)

- ① 静かな書斎: 落ち着いて集中できる空間
- ② カフェ: 飲食や交流を楽しめる空間
- ③ リビング: リラックスできる居心地の良い空間
- ④ 広場: 世代を超えて交流できるにぎやかな空間
- ⑤ 公園: 自然を感じられる開放的な空間
- ⑥ ラボ: 新しい知識や技術に触れられる空間
- ⑦ アトリエ: 興味や関心を発信・表現できる創造的な空間

■ 実施中

(4)新たな図書館の整備検討に関するインターネットアンケート調査

- 実施期間: 8月23日～12月31日
- 設問内容: 回答者情報(氏名・年齢・居住地区・居住年数・世帯内に乳幼児/小中学生/65歳以上の方がいるか)、直近1年以内の図書館の利用有無、新しい図書館は必要だと思うか・その理由、新しい図書館の機能や役割、欲しいスペース、自由意見入力、今後の情報提供の希望有無など

こちらから
回答できます！



「新たな図書館の整備検討に関するインターネットアンケート調査」
結果報告（単純集計版）

1 調査概要

(1) 目的

市長公約事業「複合機能を持つ新たな図書館の整備検討」を進めるにあたり、図書館に関心を持つ市民の意見を広く収集する。調査結果は、新図書館の基本構想及び基本計画策定の参考情報とする。

(2) 実施期間

令和7年（2025年）8月23日（土）～12月31日（土）（130日間）

(3) 調査・回答方法

いばらき電子申請・届出サービス（インターネット回答）

(4) 調査対象

つくば市の図書館や公共施設に関心のある者（市内在住、図書館利用者等の制限なし）

(5) 回答者数

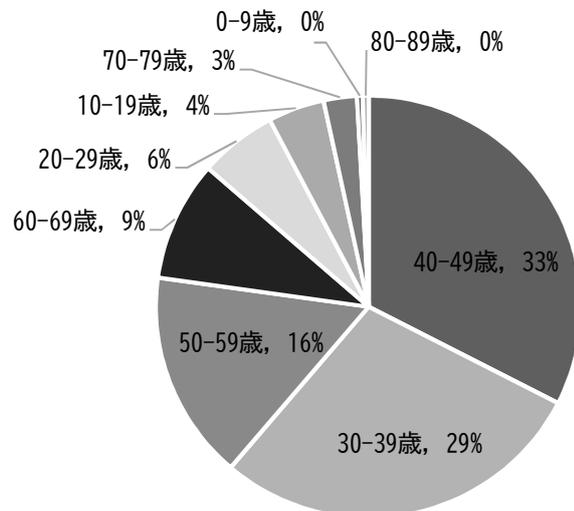
676人

2 調査結果

(1) 回答者

i. 年齢

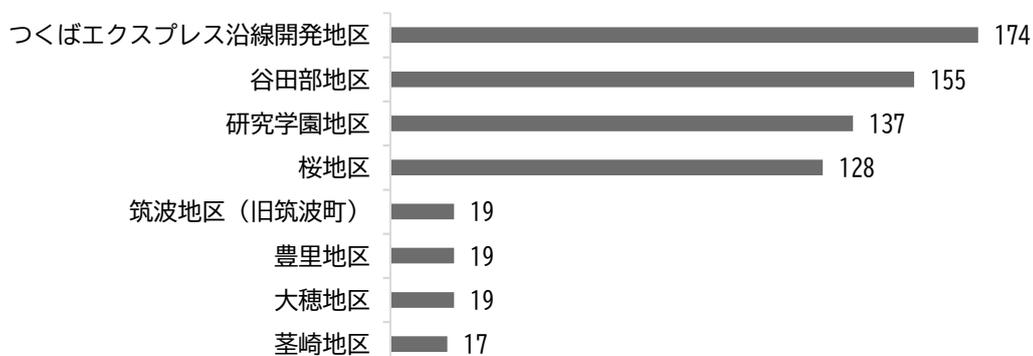
年齢(歳)	回答者数(人)
0-9	3
10-19	29
20-29	40
30-39	194
40-49	220
50-59	108
60-69	62
70-79	17
80-89	3
合計	676



ii. 居住地（市内外／県内外）

居住地（市内外／県内外）	回答者数(人)
つくば市内	668
つくば市外・茨城県内 ※茨城町 2、土浦市 1、牛久市 1、つくばみらい市 1、笠間市 1	6
茨城県外 ※東京都 2	2
合計	676

iii. 市内在住者の居住地区（668人）



■ 地区の分類について

つくば市民意識調査を参考に「つくばエクスプレス沿線開発地区」及び「研究学園地区」については、下記の分類を想定している。なお、回答者には、厳密な分類ではない旨を説明している。

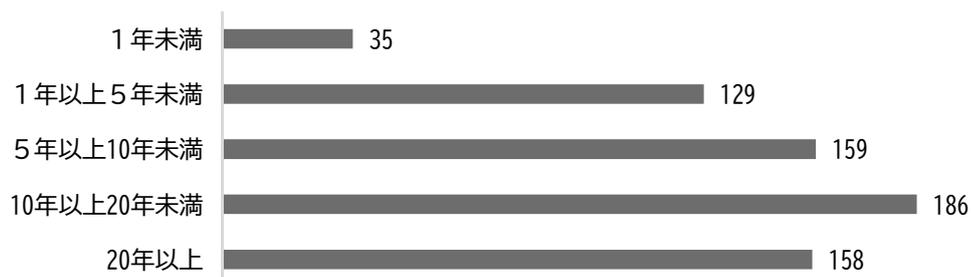
【つくばエクスプレス沿線開発地区】

研究学園、学園南、学園の森、香取台、諏訪、陣場、みどりの中央、みどりの、みどりの南、みどりの東、かみかわ、高山、万博公園西、春風台

【研究学園地区】

春日、東新井、二の宮、小野川、松代、観音台、東、稲荷前、高野台、天王台、天久保、吾妻、竹園、千現、並木、梅園、大穂、花畑、牧園、若葉

iv. 市内在住者の市内居住年数（668人）

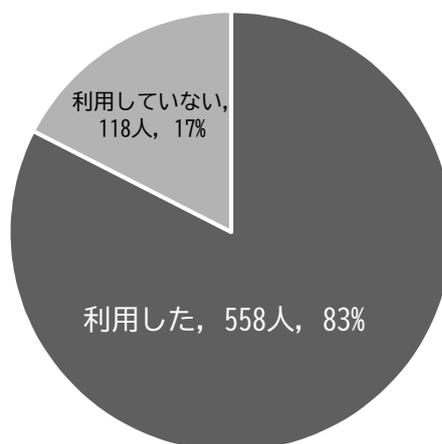


v. 世帯情報

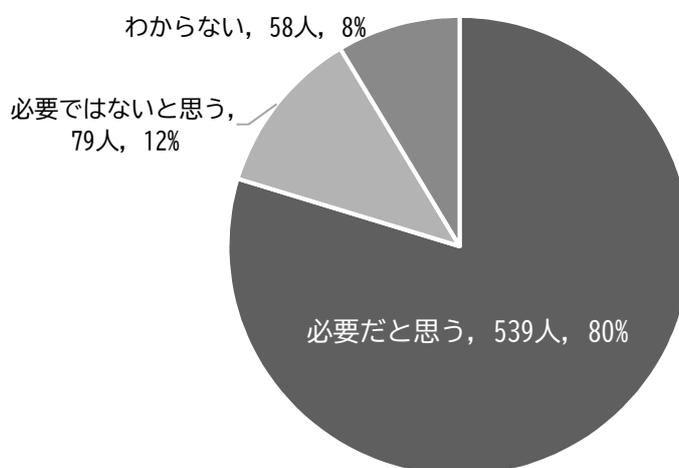
「あなたの世帯（あなたご自身も含めて）には、次に当てはまる方はいますか。」（複数選択可）

項目	回答者数(人)	回答者 676 人中
6歳未満の乳幼児	193	28.6%
小中学生	285	42.2%
65歳以上の方	74	10.9%
該当なし・回答しない	221	32.7%
合計	773	-

vi. 最近1年間における図書館・図書室利用の有無



(2) つくば市に新たな図書館は必要だと思うか



■ 「必要だと思う」理由（要約版）

① 施設の老朽化と規模不足

- 中央図書館は開設 35 年が経過し、老朽化が著しい
- 人口 26 万人に対して図書館が 1 つでは不十分である
- 蔵書が少なく、開架ではなく書庫にある資料が多い

② 駐車場の問題

- 中央図書館には駐車場が併設されておらず、遠い
- 子ども連れ、高齢者、妊婦などに大きな負担がある
- 路上駐車が常態化している

③ 人口増加地域への対応不足

- 研究学園、みどりの地区の急速な人口増加に対応して欲しい
- 近隣に図書館がなく、アクセスが悪い
- 小学校図書室（閲覧所）は、利用時間が土日祝のみに限定されており不十分

④ 学習・閲覧スペースの不足

- 休日は座席が満席になっている
- 受験生が利用できず、他市の図書館に流出している
- 自習室の利用可能時間が限定的で使用しづらい

⑤ 年代別ニーズへの未対応

- 乳幼児、児童、中高生、大人それぞれのスペースがない
- 幼児が声を出しても良いエリアがない

⑥ 研究学園都市の名に不相応

- 旧図書館情報大学を含む筑波大学がある地域にもかかわらず、施設が貧弱である
- 土浦市の図書館と比較して大きく劣る
- 現在の図書館のままでは、つくば市のイメージが低下してしまう

⑦ 子育て世代の教育格差対応

- 図書館へのアクセスが悪く、本に触れる機会が限定的になってしまう
- 経済的理由で本が買えない家庭の学習機会が失われている

■ 「必要ではないと思う」理由（要約版）

① 現施設に満足している

- 中央図書館の蔵書・機能は充実している
- 交流センター図書室も利用可能であり、困っていない
- 自動車図書館（移動図書館）がある

② 改修を優先すべき

- 新設よりも既存施設のリニューアルの方が効率的である
- 駐車場の改善や増築で対応可能ではないか
- 蔵書・司書の充実を優先すべき

③ 財政面の懸念

- 新設・継続運営に多額の税金が必要になってしまう
- 他の優先施策がある（高校設立、給食無償化など）
- 人件費を削減すべき

④ 公平性の問題

- 中心部に集中すると地域格差が拡大してしまう
- 各交流センターを充実する方が公平だと思う
- 学校図書館の活用で対応可能なのではないか

⑤ デジタル優先

- 電子図書館の充実の方が効率的である
- 紙の図書館の必要性が低下している

⑥ 実利用者の限定性

- 図書館利用者は市民の中でも少数であり、効果が限定的である
- 求められているのは図書館というより「学習スペース」ではないか

■ 「わからない」理由（要約版）

① 情報不足

- 新図書館の具体的な場所・目的・経緯が示されていない
- 同じ場所での改築なのか移転なのか、全くの新設になるのかが不明
- 全市的・地域別のニーズ把握が必要
- 個人的には満足だが、市全体としては不明。自分の地域は不便でなくても他地域は困っているかもしれない
- 他施設の維持費、費用対効果など、市の説明が不十分である

② 利用実態の不明確さ

- 図書館の利用実態、図書館に対するニーズが明確でない
- 「図書館」と「学習スペース」の需要区別が必要である
- つくば市に本当に必要な施設は何か不明

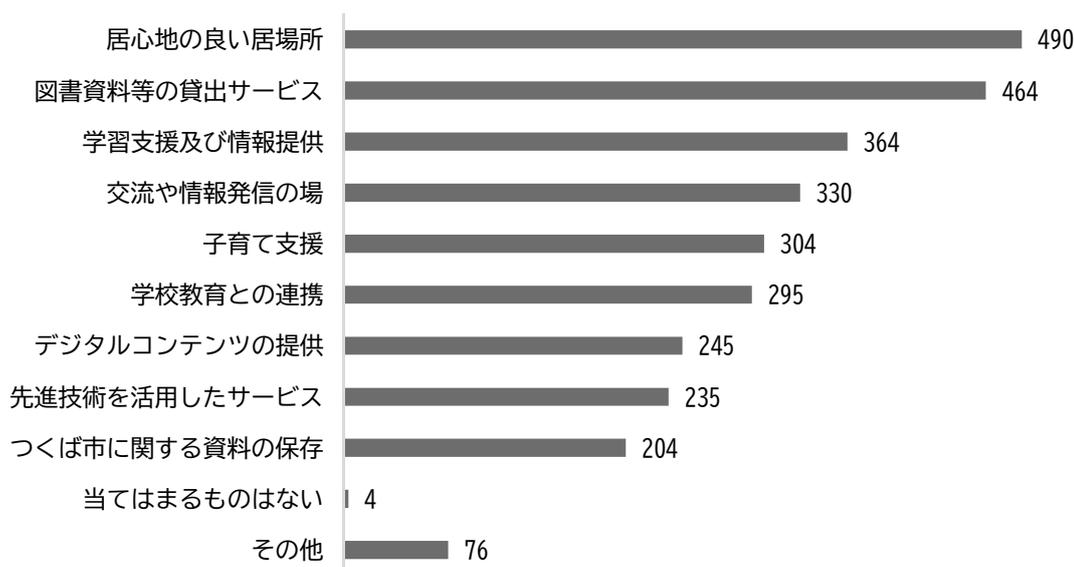
③ 改善施策への期待

- 新設ではなく、現施設の充実によって対応できる可能性もある
- 駐車場の改善や、電子図書館の充実など、新設に代わる案を検討すべき
- 図書館が複合施設となることの是非

④ 人口減少への懸念

- 今後の人口動向が不確実
- 過剰投資になる可能性がある

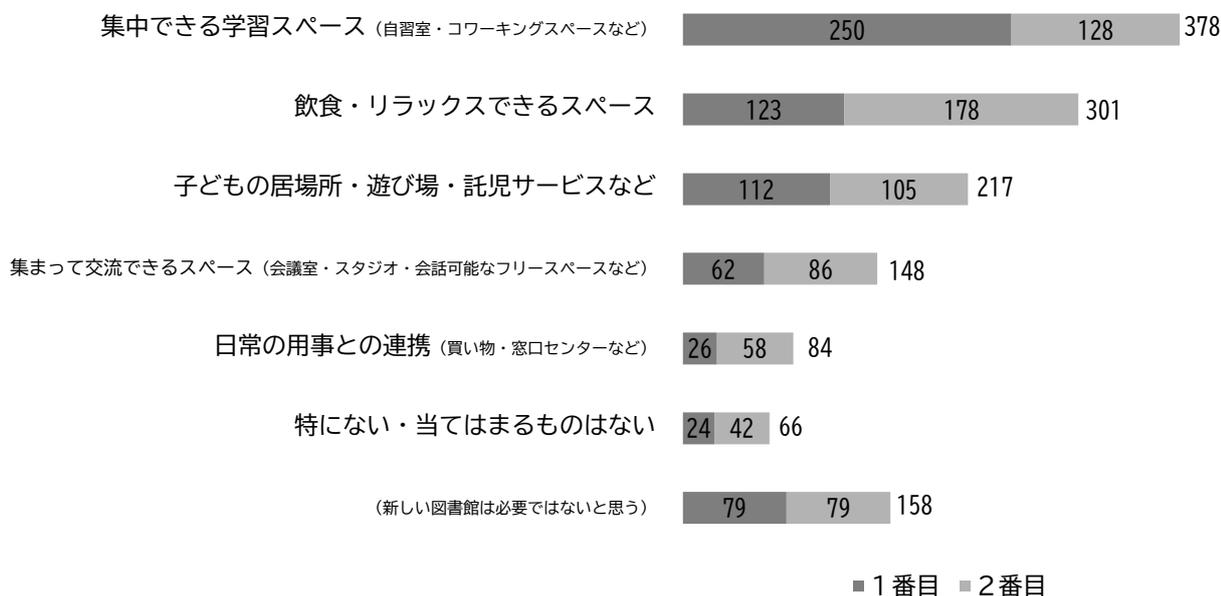
(3) 新たな図書館に必要なと思う機能・役割（複数選択可）



※ 「その他」:

駐車場・アクセス、蔵書・資料の充実、学習・勉強スペース、飲食・快適性、複合機能・交流（イベント）など

(4) 新たな図書館にあって欲しいもの（1番目・2番目）



(5) 自由意見（要約版）

① 駐車場・アクセスの良さ（最頻出）

- ・ 敷地内に広い無料駐車場の併設を強く希望
- ・ 現在の中央図書館は駐車場が遠く、子連れでは利用しづらい
- ・ 駅近くなど公共交通でアクセス可能な立地が望ましい
- ・ 車社会のつくばを考慮した設計が必須である

② 蔵書・資料の充実

- ・ 現在の蔵書は古いものが多い
- ・ 開架図書を大幅に増加するべき（書庫から出す）
- ・ 新刊・専門書・雑誌の充実
- ・ 専門書は筑波大学や研究機関との連携で対応

③ 学習スペースの拡充

- ・ 自習室の大幅拡大（頻出）
- ・ 静かな学習スペースと会話可能なスペースの分離
- ・ 個別席、グループ席、個室ブースなど多様なスペースが欲しい
- ・ 電源・Wi-Fiの完備

④ 子ども・子育て対応

- ・ 子ども・幼児スペースの独立・拡充
- ・ 防音の読み聞かせコーナー

- 託児サービス
 - 授乳室・おむつ替え室の完備
 - 絵本コーナーの充実、低めの棚設計
- ⑤ 飲食・快適性
- カフェの併設（図書館とは分離されたスペースが良いという意見も）
 - 飲食スペース（持ち込み可能エリア）
 - 明るく開放的な空間
 - リラックスできるソファ・ラウンジ
- ⑥ 複合機能
- 会議室・ワークショップスペース
 - 交流スペース
 - イベント開催機能
 - コワーキングスペース
 - 美術展示・ギャラリー機能
- ⑦ 全国の参考事例
- 頻繁に言及された図書館：
- 石川県立図書館（頻出）
 - 土浦市立図書館（アルカス土浦）
 - 神奈川県大和市文化創造拠点シリウス
 - 栃木県那須塩原市図書館みるる
 - みんなの森ぎふメディアコスモス（岐阜県岐阜市立中央図書館）
 - ヘルシンキ中央図書館オーディ
- ⑧ 利便性向上
- 自動貸出・返却機の導入
 - 返却ボックス増設（駅、市役所など）
 - ドライブスルー貸出・返却
 - 予約本をどこでも受け取り可能なシステム
- ⑨ 現施設との関係
- 中央図書館は移転ではなく現地での改築を希望する声も多い
 - 複数の分館・分室拡充で地域バランスを重視
 - 移動図書館の強化
- ⑩ つくばらしさ
- 科学研究施設との連携
 - 宇宙・科学関連資料の充実
 - 研究成果の一般向け発信サービス
 - つくばのシンボルになるような建築が良い

⑪ 人的体制

- 司書の正規職員化と待遇改善
- 専門性の高い司書配置
- 充実したレファレンスサービス

⑫ 懸念事項

- 維持費負担の懸念
- 建設後の運営体制の不透明性
- 市民への情報公開不足
- 一部の地域への集中による格差

いばらき電子申請・届出サービス【つくば市】

プレビュー 新たな図書館の整備検討に関するアンケート調査

新たな図書館の整備検討に関するアンケート調査

あなたご自身について

あなたの氏名を入力してください。 **必須**

氏: 名:

連絡先メールアドレス **必須**

メールアドレス

あなたの年齢はおいくつですか。 **必須**

(半角数字で入力してください)

歳

あなたのお住まいはどちらですか。 **必須**

住民票と現住所が異なる場合、現住所（実際に居住している場所）について回答してください。

- つくば市内
 つくば市外（茨城県内）※市町村名を入力してください

- つくば市外（茨城県外）※都道府県名を入力してください

選択解除

(つくば市内にお住まいの方) お住まいの地区を選択してください。 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

一部重複する項目がありますが、厳密なものではありません。

(参考) 令和7年7月 行政区別人口表
<https://www.city.tsukuba.jp/shisei/joho/jinkohyo/24433.html>

- つくばエクスプレス沿線開発地区
 研究学園地区
 筑波地区（旧筑波町）
 大穂地区
 豊里地区
 谷田部地区
 桜地区
 臺崎地区

選択解除

つくば市にお住まいになって何年ぐらいになりますか。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

※合併前の旧市町村も含めてお答えください。

- 1年未満
 1年以上5年未満
 5年以上10年未満
 10年以上20年未満
 20年以上

選択解除

あなたの世帯（あなたご自身も含めて）には、次に当てはまる方はいますか。 **必須**

- 6歳未満の乳幼児
- 小中学生
- 65歳以上の方
- 該当なし・回答しない

図書館について

最近1年間で、つくば市の図書館・図書室を利用しましたか。 **必須**

（自動車図書館、予約本受取窓口、返却ポストの利用も含む）

- 利用した
- 利用していない

選択解除

つくば市に新たな図書館は必要だと思いますか。 **必須**

- 必要だと思う
- 必要ではないと思う
- わからない

選択解除

新たな図書館が必要／必要ではない／わからないと思う理由を教えてください。

入力文字数： 0 / 2000

次の中から、新たな図書館に必要なと思う【機能・役割】を選んでください。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

（当てはまるものすべて）

- 図書資料等の貸出サービス
- つくば市に関する資料の保存
- 学習支援及び情報提供
- デジタルコンテンツの提供
- 先進技術を活用したサービス
- 交流や情報発信の場
- 居心地の良い居場所
- 子育て支援
- 学校教育との連携
- 当てはまるものはない
- その他

次の中から、新たな図書館に最もあってほしいと思うものを1つ選んでください。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

- 飲食・リラックスできるスペース
- 集まって交流できるスペース（会議室・スタジオ・会話可能なフリースペースなど）
- 集中できる学習スペース（自習室・ワーキングスペースなど）
- 子どもの居場所・遊び場・託児サービスなど
- 日常の用事との連携（買い物・窓口センターなど）
- 特になし・当てはまるものはない

選択解除

次の中から、新たな図書館に2番目にあってほしいと思うものを1つ選んでください。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

- 飲食・リラックスできるスペース
- 集まって交流できるスペース（会議室・スタジオ・会話可能なフリースペースなど）
- 集中できる学習スペース（自習室・ワーキングスペースなど）
- 子どもの居場所・遊び場・託児サービスなど
- 日常の用事との連携（買い物・窓口センターなど）
- 特になし・当てはまるものはない

選択解除

新たな図書館に関して、ご自由にご意見を入力してください。

入力文字数：0/2000

新たな図書館の整備検討について、今後の情報提供を希望しますか。 **必須**

御希望の方には、入力されたメールアドレス宛にメールをお送りします。

- 希望する
- 希望しない

選択解除

ご協力いただきありがとうございました。

閉じる